



令和6・7年度 幼児教育研究

心も体もげんきいっぱい！ 自分らしさ輝くこども園

～心地よいそよかぜの中 育ちあい認め合おう～

〈2年次 研究報告〉



八尾市立
西郡そよかぜこども園

令和8年2月
八尾市
八尾市教育委員会



もくじ

さいごまで
よんでね♡



第1章 研究について

1. 研究テーマについて
 - (1) 研究テーマについての考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - (2) 1年次の研究成果と園の実態と課題について・・・・・・・・・・ 1
 - (3) 課題解決に向けての方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (4) 大切にしたい視点について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2. 研究方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
3. 研究実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第2章 自分らしく輝くために～各学年の取り組み～

1. 0歳児・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
2. 1歳児・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
3. 2歳児・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
4. 3歳児・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
5. 4歳児・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
6. 5歳児・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
7. 一時預かり保育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
8. フリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

第3章 魅力あふれる園づくり

1. 魅力あふれる園に！西郡らしく！楽しく！同僚性を高めよう！・・・・・・・・ 43
2. 子ども真ん中♡チーム西郡！保護者とともに育ちあおう・・・・・・・・ 45
3. 誰もが分かりやすい環境づくり・安心できる空間づくりをめざして・・・・・・・・ 46
4. 育ちあい・認め合う・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
5. 研究を通して分かったこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
6. おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51



第1章 研究について



愛と笑顔あふれる
西郡そよかせこども園
子どもを真ん中に、保育者も保護者も愛と笑顔で子どもの育ちを支えていることを表現



たすけあいのWAをひろげよう!
色々な個性のフリー職員☆子どもも大人も気持ちよく過ごせるよう、手と手を取り合う心の体制はいつでも万全♪元気に！おもしろく！そよかせを包み込めるような集団でありたい♡との思いを表現



第1章 研究について

1. 研究テーマについて

(1) 研究テーマについての考え方

昨年度に引き続き、インクルーシブ教育・保育（育ちあい）を大切に、支援を要する子どもだけでなく、一人ひとりに必要な支援を考えながら、そよかぜのような穏やかな心もちで丁寧な保育をめざしていきたい。また、『多様性を認め合い自分らしく輝く毎日を過ごしてほしい』という保育者の願いのもと、子どもたちの心が動く出来事を見逃さないようにし、互いの感じ方や思いに気づけるような援助を心がけたい。その中で、保育者も自分らしさを発揮しながら、『育ちあう』姿をチームで見守り、援助することができる保育者をめざして子どもも大人も育ちあいたい、と以下の研究テーマを設定した。

研究テーマ

心も体もげんきいっぱい！自分らしさ輝くこども園
～心地よいそよかぜの中 育ちあい認め合おう～

(2) 1年次の研究成果と園の実態と課題について

昨年度、『自分らしさ』『育ちあい』をテーマに、大人も子どももありのままの姿を肯定的に受けとめながら、一人ひとりの違いやよさを認め合える集団づくりとそれを支える保育者集団であるために職員間で連携しながらチーム保育を進めてきた。

その中で、インクルーシブ教育・保育（育ちあい）の共通理解を深め、子どもたち一人ひとりの興味・関心を見取り、『どうしたら楽しく遊べるのか？』『大人も子どもも無理をしていないか？』の視点を持ちながら、今まであたり前にしてきた保育の進め方を見つめ直し、その都度環境構成や援助の工夫を重ねてきた。一方で、インクルーシブ保育について理解は進むものの、それらを実践に落とし込むことが時に難しく感じている。『一人ひとりを大切にされた丁寧な保育ができているのか』『一人ひとりがその子らしく過ごせているのか』、それぞれの保育者が日々、葛藤しながらもその都度職員間で意見を交わし、連携を取りながら一歩ずつ前に進んできた。

子どもたちがありのままの自分を出して、やりたい遊びや好きな遊びを存分に楽しみながら互いを認め合い、笑顔が輝き笑い合う姿を見るたびに、一人ひとりの個性を尊重し、子ども『今』を大切に保育してきたことが、確実に子どもたちの育ちにつながっていると感じる。そして、子ども一人ひとりを認める言葉がけやかかわり方、クラスの一員としての位置づけ方など『保育者のモデル』がいかに重要であるかを再確認すると同時に、そこから育まれる温かい雰囲気クラス全体に広がり、クラス集団として一体感が増していくことを実感した。また、そのためには保育者同士が子どもの姿について密に共有し、支援の手立てについて共通理解をはかりながら連携していくことが、必要不可欠であることも再確認できた。

2年目の研究に向けて見えてきた課題

- ① 『育ちあい』『認め合う』姿や心の変容を可視化すること
- ② 個別支援は常に子ども同士の関係を意識したクラス運営と結びつけ『個の育ち』とともに『クラス集団の育ち』を支える視点をもつこと
- ③ 誰もが分かりやすく、安心できる環境づくりを工夫していくこと
- ④ 子どもの興味・関心を捉え、発達を意識し、スモールステップで遊びをしかけるタイミング・援助などの保育の奥深さを追求すること
- ⑤ チーム力(同僚性)に磨きをかけ、目の前の子どもたちのために、生き生きと働ける職員集団になるために、新転任者とも研究1年目の積み重ねを共有しながら、さらにパワーアップした『チーム西郡』をめざしていくこと

以上の課題について、一歩ずつ着実に前進できるよう保育者同士での語り合いを大事にしながら、保育の正解を探すのではなく、それぞれの見取り方、見解、発想などそれらの違いを楽しめる対話を心がけたい。また、職員間のチームワークや互いの専門性を強化することで保育の質の向上を図り、職員間で支え合える『チーム西郡』を合言葉に、西郡らしさを大事にしながらか協力して保育を進めていきたい。



(3) 課題解決に向けての方向性

- ① 遊びのプロセスが分かるように写真を活用しながら、子どもたちの成長を可視化し、保育者の環境構成や援助が子どもの育ちにどのようにつながったのかを分析していく
- ② 『個の育ち』とともに『クラス集団が育っていくこと』を具体的に学び合えるように、学習会の中で事例を用いて、それぞれの視点について共通認識し、日々の保育で『個の育ち』と『クラス集団の育ち』を意識していく
- ③ 昨年度から誰もが安心して分かりやすい環境づくりについて学び、確認し合ってきた土台を活かしていく。引き続き基礎的環境整備を見直し、一人ひとりに応じた合理的配慮も考えながらクラスづくりをしていく
- ④ それぞれの年齢の発達段階をしっかりとおさえ、一人ひとりの育ちのペースを大切にしながら、子どもたちの『今』を大事にその瞬間を見逃さずに援助していく。実践してどうだったかを保育者間で振り返り、環境の再構成や保育者の援助の見直しを積み重ねていく
- ⑤ 学習会のアイスブレイクも研究テーマと絡めながら、楽しく同僚性を高める工夫をしていく。職員の悩みの『今』に寄り添う内容を心がけ、対話を大事にしながらか、それぞれの意見を尊重し合える関係性を築き、風通しのよい職場環境をつくっていく

(4) 大切にしたい視点について

『自分らしく輝く姿』や『育ちあい認め合う姿』とはどのような姿なのか、また『それらの姿を捉える視点』について職員間で考えを出し合い、共有することで共通認識をもって意識しながら保育を進め子どもの育ちを支えていけるのではないかと考えた。

『自分らしく輝き、育ちあい認め合えるクラスづくり』をめざして研究テーマに迫っていく。

自分らしく輝く

夢中になる

自分のことが好き

安心できる



やりたいことが存分にできる

いきいき！わくわく！笑顔！

自分の思いを出せる



4月の学習会では『自分らしく輝く姿』と『それを捉える視点』についてみんなで意見を出し合いました！

一緒になって楽しむ、共感する

発信をキャッチ

安心できる環境

小さな成長や変化に気づく



視点

やりたいことを存分にできるように

- ・安心して思いを出せるように
- ・子どもの思いを受けとめる

一人ひとりのペースに合わせた目標

育ちあい認め合う

お互いに刺激を受け合う

やってみたい！

優しい



気持ちをぶつけ合える

お互いを大切にしよう

自分の思いを出し合える

『育ちあい認め合う姿』や『それを捉える視点』って？ ということかな？



第2章について

興味を捉える

子どもたちにも発信

言語化共感

保育者がモデル



視点

保育者が仲立ちする

友だちの思いに気づかせていく

発信をひろっていく

子どもたちとの運命の出会い。進級、入園当初は互いを理解し合うために大切な毎日。子ども一人ひとりのつぶやき・しぐさ・態度・どんなことも見逃さない！

第2章では、一人ひとりが自分らしく輝くために、年度当初の子どもの姿をどのように見取り、安心基地をめざして取り組んできたかを具体的に記載しました。

2歳児～5歳児の表は見取りポイントから→◆環境構成★援助まで2ページにわたり、見開きでリンクしています。

➡ 方向に読み進めていくと…大事なことが見えるはず！

【見取りのポイント】 ➡	【見取り】 ➡	【保育者の願い】 ➡	【◆環境構成★援助】

安心基地から自分らしく輝く子どもの姿や育ちあっている姿など各学年のエピソードページ（P7～）で絶賛掲載中！



2. 研究方法

【園内研究会】（公開保育）

保育を公開し、観察シートを用いて、自分らしく輝いている姿・環境構成・育ちあいの場面を見取りながら、子ども一人ひとりに応じた援助やタイミングを分析し検討する。参加者の意見や鶴教授の指導助言をもとに、日々の保育実践へ活かし、質の向上へとつないでいく。

【事例研究会】

『個の育ち』の姿に迫り、子どものつぶやきや表現をどう見取り、発達や成長を踏まえてスモールステップで主体的に『やりたい』へと心が動く環境構成や援助について様々な視点から学びを深める。参加者同士の対話を大切にするためにSH法（しゃべりたい放題法）で話し合い、明日からの保育実践につなげていく。（SH法は、自園独自の話し合いの仕方）

【指導案検討会議】

学年やクラス担任の思い、自分らしく輝く姿や育ちあっている姿が反映された指導案づくりをめざし、検討し合う。また、支援を要する子どもを学年間で共有し合い、課題や保育者の援助や環境づくりなど、遊びのプロセスが明確になる指導案にする。

【カリ前語ろう会議】（カリキュラム前に話し合う）

担任と担当主幹が子どもの『今』の姿を共有し、肯定的に捉えながら、ねらいに沿った環境構成や援助になっているかを学年間で意見を出し、認め合う。また、担任の悩みに担当主幹が寄り添い一緒に語り合う。

【カリキュラム会議（愛・合いタイム）】

話しやすい雰囲気づくりに努め、クラスの現状とともに保育の悩みを出しやすい会議になるよう心がけている。その時々悩みに寄り添って多面的な視点で意見を出し合えるようにする。一人の悩みに職員間で向き合うことで、一人で抱え込まずに保育できるよう支え合うチーム保育をめざす。

【育ちあい会議（支援担当者会議）】

支援担当者だけでなく主担任や参加希望の職員とともに、多面的に一人ひとりの（発達）スモールステップになっているか、確認し合う。さらに、日々の保育の中で一人ひとりが自分らしく輝くための援助方法を探り、子どもも保育者も育ちあえるようにする。

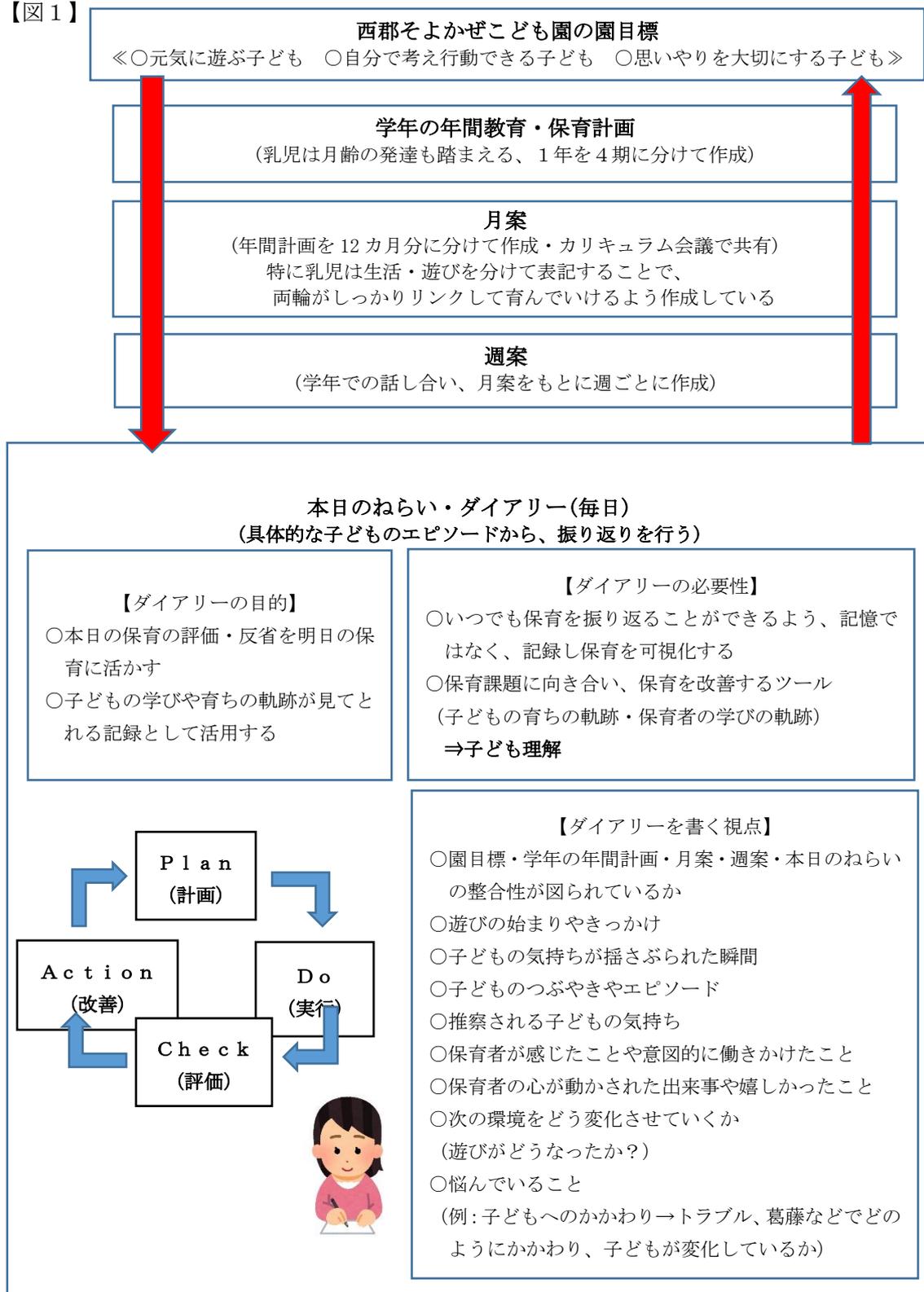
【園内学習会】

保育者の悩みや学びたいことをきき取り、ニーズにあった学習会となるよう計画を立てる。保育者間の対話を心がけ、一人ひとりの保育の質の向上となり、同僚性を育むきっかけとなるようにねらいをもって行う。

《研究サイクルの図》

年度当初、保育者間で子どもの姿や実態、課題を見取り、園目標を指標に、研究テーマを決定する。また【図1】のように、年間・月・週・毎日の計画を立てていく。日々の保育の中での具体的な子どものエピソードなどから保育の振り返りを行い、計画と保育の整合性が図られているかを確認することの大切さを学習会で共通認識した。

【図1】



3. 研究実績一覧

(1) 園内研究会

日付	学年	討議の柱
※5月29日(木)	4歳児	ともに過ごす中で、どの子どももありのままに、やりたい遊びを楽しめる環境構成と援助とは
※7月31日(木)	3歳児	子ども一人ひとりが安心して自分の思いを出しながら、やりたい遊びを楽しむための環境構成と援助とは
9月10日(水)	1歳児	子ども一人ひとりの思いを受けとめながら、やりたい遊びを楽しむための環境構成と援助とは
11月10日(月)	2歳児	ありのままの姿を受けとめながら、発達や個人差に応じた環境構成や保育者の援助の在り方とは
1月22日(木)	0歳児	子どもたちが安心して自分らしく輝くための環境構成と保育者の援助とは(保育者の連携)(予定)
※2月5日(木)	5歳児 (全学年)	子ども一人ひとりの『今』をどう受けとめ、自分らしく輝く姿を支える環境構成と保育者の援助の在り方とは(予定)

※指導講評・講演 武庫川女子大学 教授 鶴 宏史さん

(2) 事例研究会

日付	学年	討議の柱
9月18日(木)	一時預かり 3歳児	子どもの思いを受けとめながら、自分らしさを発揮し、育ちあうための保育者の環境構成や援助とは

(3) 園内学習会

日付	内容
4月24日(木)	研究2年目に向けて/子どもの姿共有(写真活用)/【グループワーク】インクルーシブ教育・保育について～自分らしく輝く・育ちあい認め合おう～“目標について”など
5月30日(金)	4歳児園内研究会の振り返りと共有/【グループワーク】“人権について”
6月26日(木)	他園園内研究会・事例研究会報告/ “保護者支援について”/“ダイアリーの書き方”について
7月28日(月)	他園園内研究会・事例研究会報告/1学期総括/“園の魅力発見・発信ポスター”製作/“学年のよさ”自慢/研究冊子の内容検討
8月28日(木)	他園園内研究会・事例研究会報告/3歳児園内研究会の振り返りと共有/ 【グループワーク】“『個』と『全体』について”/学年での話し合い
10月28日(火)	他園園内研究会/事例研究会報告/1歳児園内研究会の振り返りと共有/ 研究冊子作成/学年での話し合い
11月27日(木)	2歳児園内研究会の振り返りと共有/本発表についての話し合い(予定)
12月12日(金)	研究冊子の共有/2学期総括(予定)
1月27日(火)	0歳児園内研究会の振り返りと共有/研究発表の内容共有(予定)
2月27日(金)	5歳児園内研究会の振り返りと共有/ 今年度の振り返りと次年度に向けて(予定)

第2章 自分らしく輝くために

～各学年の取り組み～



まだまだ
あるよ～♡

みどりいっぱい、えがおいっぱい
愛と優しさのそよかぜこども園
園長をはじめ、先輩に何でも相談で
きチームワークのよさや仲のよさ、
いつでも子どもが中心にあること
を保育者が手をつないで輪をつく
るイラストで表現

西郡でございます

～おうちのようなこどもえん～

アットホームなこども園の中で園長を
はじめ職員、子ども同士がつながり安心
の輪が築かれていることを表現



あったかいね♡西郡

職員も子どもも保護者もほっこりす
るようなあたたかいこども園
みんなが大好きな亀のながちゃんも
一緒に大きなお風呂に仲よく入っ
て、心も身体もぽっかぽかぬることを表現



第2章 自分らしく輝くために～各学年の取り組み～

1. 0歳児

◆年度当初の子どもの姿

入園当初は、①保護者と離れる際に泣いたり体全体で拒否をしたり、抱っこを受けつけない姿があったりして不安な気持ちを全身で表現していた。②一人ひとりに丁寧にかかわることで、抱っこされると泣きやむようになり、少しずつ泣かずに過ごせる時間が増えてきた。

保育者が安心できる存在と分かると、周りにも目が向くようになり、③そばにある玩具に興味をもち、手を伸ばして触ろうとする姿が見られた。また、友だちが遊んでいる姿を見て安心な場所と分かると、④泣いていた子どもも遊んでみようという気持ちが芽生え、少しずつ笑顔で過ごせる時間が増えてきた。

保育者との信頼関係ができてくると、担当保育者を後追いする姿も見られ、ひよこ組が安心して過ごせる場所となっていく。また、音のなる玩具に興味を示し、体を揺らしてリズムに乗る姿も見られ、音楽が終わると“もう一回鳴らしてほしい”表情が見られるようになった。センサーボトルやボールなども自分で振ったり転がしたりすると、音や感触に変化があることを喜び、毎日笑顔が見られるようになった。外気浴も気分転換になり、外に行くことを楽しみにするようになった。



次のページに◆見取り、◆保育者の願い、
◆環境構成・援助を載せています！
第1章P3も見てね！



◆見取りのポイント

- ①見慣れない保育者や慣れない環境で過ごすことが不安で泣いている姿があった
- ②慣らし保育に協力的な家庭が多く、子ども一人ひとりのペースで無理なくゆっくりと慣れていくことができた
- ③興味のある玩具に手を伸ばして、触ろうとする姿があった
- ④新しい環境に慣れて遊んでいる子どもや、慣れるのに時間がかかる子どももいる

◆見取り

- ◆安心できる保護者と離れ、初めての環境に不安を感じ、泣くことで思いを表出しようとしている
- ◆担当保育者との1対1のかかわりから、抱っこや触れ合いなどのスキンシップを通して信頼関係ができ、担当保育者に安心感を求めている
- ◆一人ひとりの興味・関心に合わせた環境を用意し、保育者が楽しそうに遊んでいる姿を見せることで、玩具の音や動きに興味を示し、手を伸ばして触ろうとするようになった

◆保育者の願い

- ◆一人ひとりの生活リズムに合わせて安心して生活できるようになってほしい
- ◆担当保育者に思いを存分に受けとめてもらうことで、自分が大切にされる経験を積み重ね、情緒が安定した心地よい生活を過ごしてほしい
- ◆興味のあるものに自分から進んで、見たり触れたり楽しめるようになってほしい
- ◆保育者と一緒に経験する中で0歳児なりに“やってみたい”“もっとしたい”という気持ちを育てたい
- ◆家庭と園の生活が切れ目なく、一人ひとりのペースで心地よく過ごせるように保護者との信頼関係を築きたい

◆環境構成・援助

- ◆新しい環境の中で安心して過ごせるように担当保育者と1対1のかかわりを大切に、信頼関係を築いてきた。生活面ではそれぞれの担当保育者が子どもの気持ちに寄り添いながら、穏やかな表情や雰囲気ですずかにかかわり、毎回同じ手順にすることで情緒の安定を図ってきた
- ◆生理的欲求を十分に満たせるよう、担当制保育を通して適切に援助してきた。子どもたちが欲求や思いを安心して表すことができるように、表情やしぐさから思いを読み取って受けとめ、共感しながら応答的なかかわりも大切にしてきた
- ◆担当保育者が子どもたちの『安心基地』になり、生活や遊びの中で安全・安心に過ごすことができるように、保育者間の連携を大切に、丁寧なかかわりをしてきた。子どもたちの姿や様子を伝え合い、保育者間で共有しながら一人ひとりが安心して心地よく過ごせるよう心がけて保育を行ってきた
- ◆子どもが自ら好きな遊びを見つけられるように、興味・関心に寄り添って共感し、一緒に楽しむことを大切にしてきた。また、子どもの姿に応じたり、子どもの目線に立ったりして、環境を再構成してきた
- ◆保護者との信頼関係の構築のために、保護者の悩みや思いに寄り添い、送迎時や連絡帳を通して日々のコミュニケーションを大切にしてきた

◆育ちあい♥認め合いエピソード

まねっこだいすき

4月生まれから1月生まれと月齢の差が大きいひよこ組。担任間の連携を大切にしながら一人ひとりの生活リズムに合わせて温かい言葉をかけ、担当保育者が丁寧にかかわるよう心がけてきた。

8月、担任が泣いている他児をあやす姿や午睡時は体を優しくトントンしてかかわる姿を見て、A児も友だちの存在に興味を示し、保育者の行動を真似しながら、優しく友だちにトントンする姿が見られた。そんなA児の姿を見て他児も友だちの声や動きに気づき始め、友だちに興味をもつ姿が増えてきた。

保育者や子どもとのやりとり

〈遊びの時間〉

保育者：「C君が泣いているね、どうしたのかな？」
泣いている友だちを見つけると、B児は不思議そうにC児のそばに座り見つめる。



A児：（こうやってねえ、先生はなでなでしていたな…）

と泣いている友だちのそばに寄り添い、頭をなでるA児。

保育者：「Aちゃん優しいね、C君も嬉しかったみたいだよ、ありがとう」

A児は大好きな先生に褒められ、嬉しそうに笑っている。



〈離乳食を終え、午睡の時間〉

保育者：「お布団で今からねんねしようね」

その言葉を聞いたA児は布団の上で寝転がる友だちのそばに行き、A児：（ねんねだよ、おやすみなさい）と優しくトントンしていた。そんなA児の姿を真似て、B児も友だちをトントンしようとする姿が見られた。



エピソードのポイント



日々の保育者の行動や言葉かけなどの丁寧なかかわりが、A児の心地よい経験となり、自然と子どもたちのモデルになっているんだね。

真似っこの段階だね！保育者がモデルとなって応答的に温かく接することで、友だち同士のかかわるきっかけや優しさが生まれてきたよ。



大好きな先生がしていることを真似ることで、友だちが泣きやみ先生に認められる。自分らしく輝くための土台づくりの最初の小さな第一歩だね♥

◆研究の総括



《子どもの育ち》

- ◆担当保育者との信頼関係ができ、ひよこ組が安心基地になると、周りの人や物、環境に興味・関心をもつことができるようになった。また、安心して自分の思いを喃語や指差しなどの仕草で表出できるようになった
- ◆安全を保障しながら、環境を再構成し、興味のあることを楽しめるよう見守り援助してきたことで、『やってみたい』『もっとやりたい』と感じて、やってみようとする姿が見られた。物だけでなく、友だちにも興味が広がってきた



《保育者の学び》

- ◆愛着関係の土台づくりのためには、子どもの思いやありのままの姿を受けとめ、応答的にかかわれる担当制保育が大切であると分かった。子どもの生理的欲求が満たされ、心地よく過ごせる場所や人であると感じた時に安心基地となることも分かった。担当制を丁寧に行い、保育者間で連携をとることの大切さを再確認できた
- ◆子どもの生活リズムや健康状態を共有し、一貫した丁寧なかかわりと危険を予測して声をかけ合うなど、保育者間の連携を大切にすることで、一人ひとりの育ちを認め合うことができた。また、安全・安心な環境を保障することで、子どものやってみたい気持ちにつながると分かった
- ◆保護者との送迎時のコミュニケーションを大切にし、離乳食段階を写真とコメントを使った表をつくって、視覚で分かるようにした。また、保護者からの質問や要望、直接言葉でいけない悩みなども紙に記入し、“ひよこポスト”に入れてもらうようにするなど、丁寧にかかわってきたことで、家庭と園をつなぐ信頼関係の構築につながった

《まとめ》

- ◆乳児期の丁寧な保育を通して、思いを受けとめてもらい、大切にされる経験を積み重ねることで情緒が安定してくる。そして、安全・安心が守られた中で伸び伸びと主体的な生活や遊びを保障できる環境が大切だと分かった
- ◆保護者と子どもの姿や毎日の体調、様子を細かく伝え合い連携をとることを大切にしてきた。また、悩みに寄り添い信頼関係を築くことで、子どもの成長をともに喜び合い、子どもたちにとって心地のよい園生活につながると感じた

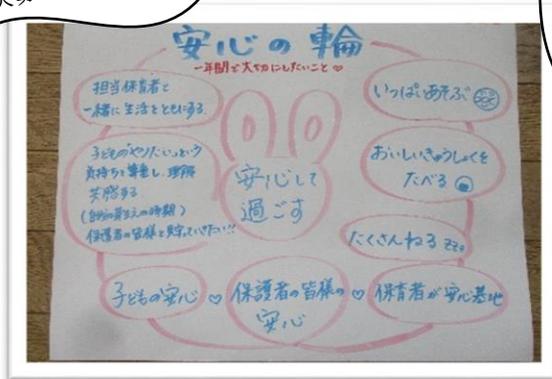
2. 1歳児

◆年度当初の子どもの姿

進級児は新たな環境になり、保護者と離れる時や日中に①ふとしたきっかけで不安になって泣くことが多かったが、子どもが安心できる声かけや応答的なかわりを通して、自分の思いを出し、安心感をもって過ごせるようになっていった。また、新入児は生活のリズムが家庭とは違うため、②午睡ができずに泣いたり、慣れない環境で座って食事をするのが嫌で立ち上がったたり、好きな食べ物しか口にできなかったりする姿も見られた。一方で、子どもたちが好きなキャラクターやペープサートなど、視覚的に分かりやすい物を使って一緒に遊んだり、子どものその時々のおもいに応答的にかかわったりすることで、次第に園の環境や担当保育者にも慣れ、探索も広がり保育者に共感を求めようとする姿も出てきた。同じ保育者がかわることで、少しずつ気持ちが表出できるようになり、安心感や信頼感につながっていった。そんな中③自分の思いをどこまで受けとめてくれるのかを試す姿もあり、活動の節目で④“いやいや”などの自己主張も激しくなっていた。また、高月齢児は友だちにも関心をもち始め、泣いている⑤他児の顔を覗き込んだり、頭をよしよししたりする姿もあり、保育者や保護者に自分がしてもらったことを友だちにしようとする姿も見られた。



1年を通して
大切にしたいこと



まだまだコットでは
安心して眠れず、保
育者の抱っこで
眠る日が続いた



◆見取りのポイント

次のページに◆見取り、◆保育者の願い、◆環境構成・援助を載せています！第1章P3も見てね！



- ① 不安になり、泣くことが多かった
- ② 午睡ができずに泣いたり、慣れない環境で座って食事をするのが嫌で立ち上がったたり、好きな食べ物しか口にできなかったりする姿
- ③ 自分の思いをどこまで受けとめてくれるのかを試す姿
- ④ “いやいや”などの自己主張
- ⑤ 他児の顔を覗き込んだり、頭をよしよししたりする姿

◆見取り

- ◆新しい環境になり、不安や戸惑いが見られ、自分の居場所を探している
- ◆安心できる場所、安心できる存在を求めている
- ◆自分を表出しながら子どもなりに、保育者を知ろうとしている。また、自分のことも知ってもらおうと色々な行動をして確かめている
- ◆言葉にできない気持ちや伝わらないもどかしさを全身で表している
- ◆安心基地ができ、自分がしてもらって心地よかったことを友だちに同じようにする姿が見られる

◆保育者の願い

- ◆保育者に対する信頼感をもち、心地よく過ごす中で、生活や好きな遊びを安心して楽しめるようになってほしい
- ◆遊びや生活の中で、『やってみたい』という意欲を育てたい
- ◆食事や睡眠、排泄のリズムを少しずつもてるようになり、満足感や心地よさを味わってほしい
- ◆安心して『自分で』や『いや』の思いを出せるようになってほしい
- ◆自分の気持ちを少しずつ言葉や身振りなど、その子なりの表現で伝えられるようになってほしい
- ◆友だちとのかかわりや共同の遊びを楽しみ、一緒に楽しいと感じてほしい
- ◆成長やできたことを認めながら、安心感の中で挑戦する気持ちを育てたい

◆環境構成・援助

- ◆保育者が子ども一人ひとりの安心基地になれるようにスキンシップをとり、温かいかかわりを心がけ、信頼関係を築いていく
- ◆子どもが『楽しい』『やってみたい』と思えるような身近にある道具や素材を準備しておく。また、遊びのしかけや環境づくりを行う
- ◆生活では担当制保育を大切に、子どもの気持ちに寄り添い丁寧にかかわり、同じ手順にすることで情緒の安定を図る
- ◆子どもの思いにすぐに応えられるように、発語やしぐさ、行動に共感しながら、気持ちや感じたことを言語化する
- ◆子どもたちの遊ぶ様子を見守りながら、共感したり気づきを言葉にしたりする。また、保育者も一緒に遊ぶ中で友だちとのかかわり方のモデルとなるようにする
- ◆子どもの『やりたい』『いやだ』という気持ちを受けとめ、安心感をもてるように肯定的に見取る。また、成功体験や自己決定の喜びを積み重ね、自信につなげる
- ◆保育者と一緒に遊びながら、友だちにも興味をもてるような雰囲気づくりや言葉がけをする

◆育ちあい♥認め合いエピソード

どっちする？

A児が虫取り網を見つけ、持とうとするも、数分前に使っていたB児が「あかん！」と言って持ち去る。その様子を見ていたC児が、自分の持っていた虫取り網ともう一つ似た色の網を持ってA児のところへやってきた。



保育者や子どもとのやりとり

A児がB児に虫取り網を取られてしまった姿を見て、保育者が白色の虫取り網を持ってきてA児に渡す。しかし、A児はB児が使っていた緑色の虫取り網がよかったのか、受けとらずにその場を後にしようとした時、C児がすかさず二本の緑色の虫取り網（鮮明な緑とくすんだ緑）を持って、A児に

C児：「どっちする？」

保育者：「Cちゃん貸してくれるんやって。Aちゃん、どっちにする？」

A児：「・・・。（鮮明な緑を指差す）」

C児：「はい！！」

A児：「・・・。」（結局、受け取らなかった）

C児が渡したのはA児が指差した鮮明な緑ではなく、くすんだ緑色の網であった。

C児の中で、自分は鮮明な緑を使いたい！！しかし、A児に鮮明な方を指差された…(汗)貸してあげたい気持ちと自分が使いたい気持ちの葛藤の揺れが見られ、まだまだ自分の気持ちが優先される1歳児ならではの姿が見られた。

エピソードのポイント



友だちの姿をよく見ていて、興味・関心が広がってきていることを感じるね。

「かして」「どうぞ」といった言葉や身振りのやりとりを通して、他者とかわる喜びや譲り合う経験を積み重ねているね。



やってもらって嬉しかったことや心地よかったこと、保育者とのやりとりの経験を再現していて嬉しい場面。だけど、まだまだ自分の気持ちが優先な姿が1歳児らしくて可愛い♡

◆研究の総括



《子どもの育ち》

- ◆特定の保育者とかかわり、安心して過ごせるようになった
- ◆身の回りのことも日々保育者と取り組むことで身についていき、自分でしようとする姿が見られるようになってきた
- ◆担当保育者と信頼関係ができたことで『自分でしたい』や『いやいや』などの思いを安心して伝えるようになった
- ◆遊びの中で『やってみたい』『もっと〇〇しよう』と意欲的に遊ぶ姿へと変わってきた
- ◆保育者が泣いている子どもに寄り添い言葉をかける姿を見て、友だちに対し「よしよし、大丈夫？」と気にかける姿が見られるようになった
- ◆気の合う友だちと一緒に遊ぼうとしたり、真似して同じようにやってみようとしていたりする姿が見られる

《保育者の学び》



- ◆保育者の主体性が大切
子どもの興味や関心に目を向け、『こうなってほしい』という願いや育ちの見通しをもち、子どもの主体性を引き出すためには保育者が主体的に働きかける必要があることを学んだ。一方で、葛藤体験や様々な物事との出会いを、時には離れて見守ることで、子どもなりの見え方や考え方に気づかされることも多いと感じた
- ◆保育者と家庭の連携が大切
家庭での様子を把握し、子どもの気持ちに寄り添ったかかわりが子どもの安心感や自己肯定感につながる。保護者との信頼関係を築き、保育者同士が補い合い認め合い、同僚性を発揮し連携して保育をすることが大切だと分かった

《まとめ》

- ◆1歳児はまず安心できる人的環境(保育者)、物的環境(好きな玩具や保育室)のもとで心地よく過ごすことが大切である。大人が安心基地となることで自分の思いを出したり外の世界や友だちへと興味をもったりすることができるのだと感じる
- ◆子ども自身がしてもらった経験を真似して友だちにかかわる姿が多いので、大人がよいモデルとなり、優しく寄り添うことや穏やかな言葉かけを今後も意識して保育していきたい

3. 2歳児

年度当初の子どもの姿

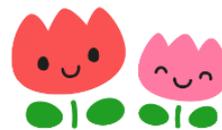
進級当初は進級を喜び、「お兄ちゃん、お姉ちゃんになった！」と意欲的に園生活を送る子どもの姿が多く見られた。環境の変化に不安を抱き、①泣いたり、部屋を出ようとしたり、時には担任に甘えてスキンシップを求める姿が見られた。前年度に慣れ親しんだ保育室や保育者を探す様子もあり、①新しい環境に慣れるまで時間を要する子どももいた。

②『いや』の気持ちを泣くことで表現したり、口が開いたりひっかいたりする姿も見られた。一人ひとりが様々な表現で伝えようとしている姿を受けとめたり、気持ちを代弁したりして丁寧にかかわってきた。

生活面では、保育者に抱っこを求めたり、人形を抱いて入眠したりして、自分なりの安心を探そうとする姿があった。また、午睡時間が短かったり、トイレに行きにくかったりして不安な様子がある子どもも多くいた。食事では、苦手な食材を避けたり、気分によって食べられない時があったりした。③また、保育者に「やって」と甘えることもあったため、その時々気持ちを十分に受けとめ丁寧にかかわったり、自分で食べられるように励ましたりしてきた。

保育室では新しい環境に戸惑い④遊びを見つけにくかったり、遊び方が分からなかったりする姿が見られた。子ども一人ひとりの興味・関心、発達に合わせた玩具を用意し、ゆったりと好きな遊びを楽しめる環境を再構成してきた。また、保育者も一緒に遊びを楽しむことで、自分の『やりたいこと』を見つけられるようになってきた。戸外遊びを好み、三輪車や滑り台など、体を動かすことを楽しんでいた。

⑤思いのすれ違いや玩具の貸し借りの場面でトラブルになる時には、まずはそれぞれの思いを受けとめ、共感しながら思いを代弁し、友だちにも思いがあることを知らせるようにかかわってきた。



①～⑤の【見取りのポイント】から考察した表がP16～P17に掲載中！
表の見方は第1章P3を見てね！



◆年度当初から考察した見取り、保護者の願い、環境構成・援助

【見取りのポイント】	【見取り】
<p>①泣いたり、部屋を出ようとしたり、保育者に甘えたりスキンシップを求めたりする 新しい環境に慣れるまで時間がかかる</p>	<p>○新しい環境に戸惑い、不安な気持ちを泣いて伝えようとしている？</p> <p>○慣れ親しんだ保育者や保育室を求めている？</p> <p>○自分の意思を示し、環境や人とのかかわりの中で自己を主張し始めている？</p> <p>○スキンシップを通して安心感を得ようとしている？</p>
<p>②泣くことや、『いや』と気持ちを表現したり、ひっかいたり、口が開く姿がある</p>	<p>○不安や戸惑いを感じながらも、自分なりに安心できる場所、安心できる存在を探し、確認しようとしている？</p> <p>○自分の思いを伝えようとするが、言葉では十分に伝えられず、『いや！』の気持ちを行動で表そうとしている？</p>
<p>③身の回りのことを保育者に「やって」と甘える (生活面：午睡・排泄・食事)</p>	<p>○様々な行動をとり、保育者のことを確かめたり、甘えたい気持ちを表したりしている？</p> <p>○『自分でしたい』と『やって欲しい』という気持ちの間で揺れている？</p> <p>○午睡やトイレに不安を感じるのかな？</p> <p>○『食べたくない』という気持ちが言えているな。その気持ちも大事にしたいな</p>
<p>④遊びを見つけにくかったり、遊び方が分からず転々としたりする</p>	<p>○周囲の様子を観察したり、興味のもてるものを探したりして、自分なりの居場所や遊びを見つけようとしている？</p> <p>○友だちの遊びに興味をもち、少しずつ遊んでみようかなという気持ちになってきている？</p>
<p>⑤思いのすれ違いや玩具の貸し借りの場面でトラブルになる</p>	<p>○自分の気持ちを言葉や行動でうまく伝えられない？</p> <p>○友だちとのかかわりの中で、友だちの気持ちに気づき始めている？</p>

- 年度当初の保育者の願い
- ◎年度末を見据えた保育者の願い

スモールステップを意識しよう！



【保育者の願い】	【◆環境構成★援助】
○新しい保育者、保育室に慣れ、安心して過ごしてほしい	◆前年度に慣れ親しんだ遊びを楽しめるように環境を整える
◎自分の気持ちや欲求を様々な方法で、安心して表現できるようになってほしい	★泣きたい気持ちは否定せずに受けとめ、思いを代弁するとともに、簡単な言葉と一緒に伝える ★スキンシップで身体的な安心を保障するとともに、担当保育者との信頼関係を築く ★担当保育者が、安心できる言葉や表情で寄り添う ★見通しがもてるように、毎日の流れを絵カードやジェスチャーで伝える
○自己主張や感情表現の方法を身につけてほしい	◆つい立てや棚で区切って小さなコーナーをついたり、好きな玩具を用意したりして、安心できる環境を用意する
○信頼できる保育者との関係の中で、安心感や満たされる経験をしてほしい	★満足するまで遊べる時間を保障する
◎言葉や身振りなどで気持ちを伝える経験を重ね、安心して自分の気持ちを表現してほしい	★十分に甘えられる、安心できる関係を担当保育者がつくり、情緒の安定を図る
○新しい環境の中でも保育者との関係を築き、安心して探索活動や遊びに向かえるようになってほしい	★気持ちを伝えようとする姿を受けとめる
○生活面では、思いを受けとめてもらう経験を通して『やってみよう』という意欲につながってほしい	★ひっかく、口が開くなどの行動が出た時は、思いを十分に受けとめ、気持ちが落ちつけるようにかかわる
◎生活に必要な身の回りのことが保育者に見守られながら少しずつできるようになる喜びを感じ、やってみようとしてほしい	★甘えたい気持ちを受けとめ、担当保育者と一緒に行うことで安心感を得られるようにする
◎安心できる環境の中で、自分の興味や関心を見つけて、好きな遊びを意欲的に楽しんでほしい	◆成功体験を積み重ねられる環境を整える
○保育者や友だちへ関心をもち、安心してかかわる経験を重ねてほしい	★やってみようとする気持ちを大事にし、過程を認めて自信につなげる
◎トラブルを通して、感情の切り替えや友だちとかかわる力を身につけてほしい	★生活の流れの中で、習慣が身につくように、温かく見守り、担当制で丁寧にかかわる
◎友だちにも気持ちや思いがあることを知ってほしい	◆一人ひとりの興味や関心を見取り、遊びたくなる環境を用意する
	◆やってみたいことを繰り返しできる環境と時間を保障する
	★保育者も一緒に遊びながら、遊び出そうとするしぐさや表情の変化を見逃さずに丁寧ににかかわり、遊ぶきっかけをつくる
	★遊びの中で感じたことを伝えたい気持ちや思いを大事にする
	★遊びの世界観を大切にしながら平行遊びを保障しつつ、友だちとのやりとりの楽しさを知らせる
	★保育者が、一人ひとりの気持ちを受けとめ代弁したり、気持ちを整理したりして、互いの思いに寄り添う
	★「貸して」「一緒にやろう」などの思いを伝える言葉を知らせる
	★うまくかかわれた時の姿を認め、人とかかわる楽しさにつなげる

◆10月の子どもの姿

「○○したい」「かして」「もう1かい」など、少しずつ自分の思いを言葉で伝えようとする姿が増えてきた。また、友だちや保育者とのやりとりの中で、言葉でのやりとりも楽しむようになり、かかわりが広がってきている。しかし、思いを言葉にできずに泣いてしまったり、強い言い方になったり、時には手が出てしまったりすることもある。

生活面では、保育者と一緒にしたり、見守られたりしながら、自分でやろうとする姿が見られるようになってきた。一人ひとりの『できた!』の積み重ねが、次への意欲につながっている。甘えたい気持ちもあり「できない」「手伝って」と保育者に伝える姿もある。

体を動かす遊びが好きな子どもが多く、幼児の遊びに興味をもち、運動遊具にも意欲的に取り組んでいる。また、ブロックでイメージした乗り物や家をつくったり、素材や玩具などを様々なものに見立て友だちと役になりきってごっこ遊びを楽しんだりする姿も見られ、経験したことが遊びの中で再現するようになってきた。一人ひとりが自分なりの表現を楽しみ、友だちとのトラブルも経験しながら、かかわりや遊びの幅を少しずつ広げている。



◆園内研での学び

発する言葉が増え、保育者や友だちとのやりとりも増える2歳児だが、個人差が大きい。保育者はすぐに言葉で返すだけでなく、子どもの姿から何を楽しんでいるのか何に困っているのかを見取り、子どもが求めているかかわりにつなげることが大切なんだね。トラブルも自分の気持ちを伝えたり、相手にも気持ちがあることに気づいたりするチャンスだと捉え、丁寧にかかわっていきいたいよね。



まずは子ども一人ひとりと関係をつくり、保育者が安心基地となることが土台になっているね。子どもの興味・関心を捉えて、安心して一人ひとりが好きな遊びを楽しめる環境構成を考えることが大事だよね。また、保育者も一緒に遊びを楽しみ、気持ちを共感することで、子どもたちの『やってみたい』につながるんだね。

保育者はまず、子どもの思いに肯定的に寄り添い、意識してかかわることが大切なんだね。



◆育ちあい♥認め合いエピソード

アイスどうぞ

進級当初から赤ちゃん人形でお世話ごっこを楽しんでいた。8月頃、保育者が子どもを抱っこしてお世話ごっこを始めると、子ども自身も赤ちゃん役やお世話役を楽しむ姿が増えた。フェルトやトングなどを、おしりふきや薬、ヘアアイロンなどに見立てながら、保育者の姿や日常の経験を再現して楽しんでいる。お世話ごっこを通して、保育者や友だちの遊びに興味をもち、一緒に遊んでみようとしたり、簡単なやりとりを経験して日常の言葉が増えたりする姿が見られるようになってきた。

保育者や子どもとのやりとり

カバンいっぱいブロックや素材を入れて遊ぶ姿が見られるA児。その日はカバンいっぱい詰めた毛糸のポンポンをコップに入れて保育者に持ってきた。

保育者：「何を持って来てくれたの？」A児：「アイス」保育者：「何味？」A児：「チョコ」保育者：「チョコアイスおいしい！ありがとう」にっこりするA児。その様子を見ていたB児。

B児：「Bにもアイスちょうだい」いつもなら戸惑うことの多いA児だが、その日はB児にもいちごアイスをつくって渡した。

するとB児が「Cにもアイスあげたげて」と赤ちゃん役をしていたC児の分もA児に願う。A児は赤ちゃん役の子C児にも「はいどうぞ」とアイスを渡した。

B児C児2人とも嬉しそうに食べる。その様子を見ていたA児も嬉しそうだった。その日からA児は、赤ちゃん役をしている友だちにご飯をつくったり、寝かしつけたりする姿が見られるようになった。



エピソードのポイント



安心できる環境の中で、繰り返し好きな遊びを楽しんだA児。存分に楽しんだからこそ、友だちへ興味を広がり、かかわりへとつながったんだね。

A児、B児、C児は同じグループで、生活をともにすることも多い。同じグループの友だちだったので、「どうぞ！」ができたと思う。それがきっかけでやりとりをする面白さを感じ、自分の渡したアイスで友だちが嬉しそうにしている姿を見て『もっと一緒に遊びたい』という気持ちにつながったんだね。



◆研究の総括



《子どもの育ち》

- ◆友だちへの興味が出てかかわりが増え、安心感をもって自分の思いを言葉や身振りで伝えられるようになった
- ◆身の回りのことを自分でやろうとする姿が増えた
- ◆好きな遊びを見つけ、じっくりと楽しむようになってきた
- ◆やりとりを楽しみながら見立て、ごっこ遊びを楽しむようになった
- ◆家庭や園での様々な経験を遊びの中に取り入れ、イメージを共有して友だちや保育者と再現遊びを楽しむようになってきた
- ◆身近な生き物や植物、自然物にふれ、興味をもって遊ぶようになった



《保育者の学び》

- ◆子ども一人ひとりと信頼関係をつくり、保育者が安心基地となることが大切と分かった
- ◆保育者が子どもの姿から興味・関心を見取り、遊びを提案したり援助したりした後、その見取りの確認をすることが大切と分かった
- ◆一人ひとりの興味・関心のタイミングが様々であることを考慮して、環境を一定期間固定させ、自分たちで出したり片づけたりできるように整えることが大切であると知った
- ◆肯定的に子どもの気持ちを見取り、やりたくなるような言葉かけや寄り添うことを意識したかかわりが、子どもの安心感につながると分かった

《まとめ》

- ◆保育者も一緒に遊びを楽しむ中で、子どもの興味・関心を見取り、一人ひとりの遊びを保障するために空間を区切る。タイミングを見て区切りをなくし、遊びの再構築をすることで、子どもの世界が広がる
- ◆保育者との信頼関係を築き、安心して園生活を送ることが大切。遊びや生活の中で子どもの『できた』を丁寧に積み上げていきたいと思った。そのためにも保育者がゆったりと構え、チームでかかわることで子ども一人ひとりの確かな成長につなげていきたい

4. 3歳児

年度当初の子どもの姿

年度当初は、もち上がりの担任がいなかったことから、①緊張気味の子どもや、不安な表情や涙を流す子どもが多かった。気持ちが落ち着かない子どもが多く、保育室の中をウロウロしたりすぐに違う遊びに移ったりしていた。②新しい保育室や玩具に興味をもつものの、自分のしたい遊びが見つけれず、友だちの姿を眺めたり保育者とのかわりを求めたりする姿が見られた。



5月になると安心して過ごすことができるようになり保育者と一緒に少人数で遊ぶようになってきた。したい遊びを見つけれられるようになったが、保育者がそばにいないと不安になり後追する子どももいた。

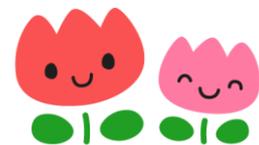
また、自然物や昆虫に興味をもつ子どもが多く、虫取りや観察を楽しむ姿が見られたが「貸して」が言えず、友だちが持っている③虫取り網を取り合ったり、捕まえた昆虫を入れた飼育ケースを「自分の！」と、独り占めしようとしたりする姿が見られた。

保育者との信頼関係を築き始めたことで、徐々に子どもたちの気持ちもほぐれ様々な形で思いを表現するようになってきた。保育者や、友だちとのかわりを求める子どもが多く、④自分の思いを主張したりかわり方が分からなかったりすることからトラブルが多かった。



⑤友だちへの関心や自分の気持ちを伝えたい一心で相手が嫌がるような行動をとって、気を引こうとする子どももおり、遊びが中断することがあった。

また、生活面においては、⑥片づけに誘うが「まだ遊びたい！」と泣いて嫌がったり朝の会の時に「椅子に座りたくない！」と言ったりする子どもがいた。身の回りのことにおいても、個人差が大きく気が乗らず嫌がる子どももおり、全てが初めての新入園児に加え、在園児においても新しい環境に慣れるところからのスタートであった。



①～⑥の【見取りのポイント】から考察した表がP22～P23に掲載中！
表の見方は第1章P3を見てね！



◆年度当初から考察した見取り、保護者の願い、環境構成・援助

【見取りのポイント】	【見取り】
<p>①緊張気味の子どもや、不安な表情や涙を流す子ども</p>	<p>○新しい環境や担任に戸惑っている？気持ちを分かってくれるのかな？と思っている？</p> <p>○クラス替えで仲のよかった友だちが隣のクラスにいる</p>
<p>②自分のしたい遊びが見つけれず、友だちの姿を眺めたり保育者とかかわりを求めたりする姿</p> <p>友だちのしていることに興味をもち、近くで遊びたいという思いがある</p>	<p>○新しい保育室でしたい遊びがある？</p> <p>○これってどうやって遊ぶのかな？色々なことが初めてで分からないな…</p> <p>○ドキドキするけど、先生の近くにいたら少しだけ安心する・・・</p> <p>○捕まえたことが嬉しくて、自分だけのものにしたい！</p>
<p>③虫取り網を取り合ったり、捕まえた昆虫を入れた飼育ケースを独り占めしようとしたりする姿</p> <p>④自分の思いを主張したりかかわり方が分からなかったりしたことからトラブルになる</p> <p>少しずつ周りのことが見えてきた</p>	<p>○貸し借りの方法を知っているかな？</p> <p>○自分の気持ちを聞いてほしい！という思いが強い</p> <p>○家庭での親子のかかわりはどうかな？我慢をしていたのかな？気持ちを十分に聞いてもらえているかな？</p>
<p>⑤友だちへの関心や自分の気持ちを伝えたい一心で相手が嫌がるような行動をとって、気を引こうとする</p> <p>遊びたい！自分なりの表現で伝えられているんだな…</p>	<p>○思いをうまく伝えることができないことから、イライラしてしまうのではないかな？</p> <p>○相手の気持ちを理解できる発達段階ではないのでは？</p> <p>○友だちの思いに気づきにくく、かかわり方に幼さがあるな・・・</p>
<p>⑥片づけに誘うが「まだ遊びたい！」と泣いて嫌がる子どもがいる。朝の会の時に「椅子に座りたくない！」と言ったり、着替えも気が乗らず嫌がったりする子どももいる</p>	<p>○見通しをもつことができているのかな？</p> <p>○十分に遊ぶことができていないのかな？</p> <p>○思うようにできないという気持ちから朝の会に参加するのが嫌になっている？</p>

- 年度当初の保育者の願い
- ◎年度末を見据えた保育者の願い

スモールステップを意識しよう！



【保育者の願い】	【◆環境構成★援助】
○安心して園生活を過ごせるようになってほしい	★どんな姿や感情も受けとめることで思いを出すことができるようにし、信頼関係を築く
◎園が安心基地、自分の居場所となり友だちと過ごす楽しさを知ってほしい	★一人ひとりに寄り添い、内面を見取り援助の方法を変える
○やりたい遊びを見つけ楽しんでほしい	◆絵本や手遊びなど、興味のある物や好きな物を見取り、遊びにつながるように環境を整える
◎やりたい遊びに必要なものが分かり、遊びがつながるようになってほしい	◆自分のイメージした物をつくることができるように様々な素材や道具を用意する
○自分の思いを自分なりの表現でできるようになってほしい	◆好きな物が調べられる図鑑や絵本を用意し、友だちと好きな物が一緒だということを知ったり、遊びのきっかけとなったりするよう働きかける
◎玩具の貸し借りをしながら、一緒に遊ぶ楽しさを知ってほしい	★同じイメージをもって遊ぶことができるように保育者が仲立ちとなる
◎やりたい遊びを友だちとイメージを共有し、やりとりしながら遊ぶことを楽しんでほしい	◆子どもの姿から興味・関心を見取り、実現できる環境づくりを再構築する
○友だちにも思いがあることを知ってほしい	★互いに感じている気持ちを受けとめ代弁する。保育者がモデルとなりやりとりの方法を伝え、相手の気持ちに気づくことができるようにする
◎自分の思いだけでなく相手にも思いがあることを知り、気づくことができるようになってほしい	★子どもたちのよいところを保育者が言葉で伝えることで、互いに認め合うことができるようにする
◎互いを認め合い『ステキだね』が増えてほしい	★できた時の嬉しい気持ちに共感し『やってみよう』とする気持ちを大切にする
○少しずつ身の回りのできることが増えてほしい	◆絵カードやタイムタイマーを使い、生活の流れや活動の切り替えるタイミングが視覚的に分かりやすいようにする
◎様々な経験をすることで自信を持ち、『できた』から『やりたい』に変わってほしい	

◆10月の子どもの姿

やりたい遊びが広がると同時に友だちとのかかわりも広がってきている。ごっこ遊びではそれぞれのイメージで役になりきったり、やりとりをしたりすることを楽しんでいる。絵本をきっかけに大好きな忍者になりきって手裏剣を的に投げたり、段ボールを使って「かくれみの術～！どこにいるでしょうか？」と術を使ったりしながら一つの遊びを継続する姿も見られるようになってきた。かかわりが増えることでトラブルも増えているが、自分の思いを相手に言葉で伝えようとする姿も出てきている。周りの様子も見えるようになり「〇〇くん待ってるからじゅんばんこにしよう」「次代わってな」などの声もきかれるようになってきた。つくることにも興味をもつようになり、粘土でつくった物を「みて！こんなんつくった！」と嬉しそうに見せたり、廃材や様々な素材を使って自分のイメージしたものをつくったりする姿も増えてきている。



◆園内研での学び



その時々の子どものイメージを拾って遊びにつなげていくことが大事だよ。全員がイメージしやすく分かりやすい言葉がけをしてみてね。

保育室の環境は同じだけど、その日その時の子どものイメージが変わっていくので、そこを大切にしながら遊びをつなげていくことが大切だと分かった。



子どもが遊んでいる姿を保育者が決めつけて言葉にするのではなく「何してるの？」と、子どもたちの思いをまずきくことが大切なんだ。



楽しそうに遊んでいたら、子どもたちは自然と集まってくるんだよ。繰り返しのやりとりやパターンがあると安心して楽しめるのではないかな。

一人担任でどうやって子どもたちとかかわりながら遊んだらいいか悩んでいたけど、どの遊びを中心にかかわるかを決めたり、どのように広げたりしていくかが大切なんですね。



◆育ちあい♥認め合いエピソード

大好きなキャラクターになって…

運動遊びに苦手意識があるA児。興味の幅を広げて欲しいとの願いをもち、運動遊具に誘うと「できないから」「無理」が口癖ようになっていた。運動遊具に触れる機会をもち、A児の好きなキャラクターのお面を用意すると、その日はお気に入りのキャラクターになりきり、はしごに触れ、手をつないで渡りきることができた。「Aくんすごい！」と友だちから拍手され、それ以来、自分から他の運動遊具に挑戦しようとする姿が見られている。

保育者や子どもとのやりとり

好きな遊びの中で、体を使って遊ぶことが楽しめるように環境を整えた。

保育者：「A君、一緒にやってみーひん？」

A 児：「できへんからいや」「無理」・・・三輪車で走り去る

ある日・・・A児：「これ好きやねん。特に(この)うさぎ」

保育者：「じゃあさー、今日は公園に行こうよ。うさぎちゃんになって」

うさぎのお面をつけると、運動遊具に対しての怖さはあるようだったが、「はしごしてみる！」とA児が挑戦した。

保育者：「できているよ」「上手やん！」

体の使い方に不器用さが見られるA児だが、見事、最後まで渡りきることができた。

その日の振り返りにて・・・

保育者：「今日のはしご渡りチャンピオンはAくんです！怖かったけど、最後までいけてんで！しかも泣いてないねんで！」

友だち：「すごい！」「〇〇もチャンピオンになってみたい！」

A 児：「最後までいけたな、できたな」

みんなから拍手をもらい、嬉しそうに何度も言う。

しばらくして、鉄棒をやりたい！という子どもの中にA児の姿が見られた。

エピソードのポイント



苦手なことは誰にでもあるよね。どうしたら、A児が運動遊びをやってみようと思えるかな。興味のある物(好きな物)は何か？を考えてみた。

やってみようと思いが動いた瞬間を見逃さない！大きな一歩だったよね。みんなに伝えてみよう！がA児の自信につながったんだね。



友だちや色々な先生から「すごい！」と言ってもらえて嬉しかったね！自信につながった瞬間。他にしてみたいことはあるかな？A児の『やってみようかな…』を大切にしていきたいな。

◆研究の総括



《子どもの育ち》

- ◆やりたい遊びを見つけて楽しむことができるようになったことで、友だちとかかわり、子ども同士でのやりとりが増えた
- ◆何事にも興味をもちやってみようとしている
- ◆保育者に思いを受けとめてもらうことで、自分の気持ちを相手に伝えようとする姿が見られるようになってきた
- ◆友だちにも思いがあるということを知り、保育者の援助で、相手の気持ちを受け入れられるようになってきた
- ◆自分の思いと友だちの思いの中で、葛藤しているところである



《保育者の学び》

- ◆子どもたちの興味・関心がどこにあるかを見取り、やりたい思いをすぐに具現化できるように環境を整える（『今』を大切に）
- ◆子どもの世界観に入り込み、遊びの楽しさに共感し、遊びを一緒に広げていく
- ◆子どもたちの姿から、言葉にならない思いを汲み取り、気持ちを受けとめ、言語化しながら子ども同士をつなげていくことが大切である
- ◆様々な子どもたちの姿を肯定的に捉え、保育者間で共有し合い、子どもの気持ちに寄り添っていく
- ◆子どもの姿を見取り、発達に合っているか、子どもの思いに寄り添えているか考え、保育を振り返ることが大切だと学んだ

《まとめ》

- ◆子どもたちを肯定的に見取り、安心して好きな遊びを楽しむことができるような環境を常に再構築していくことが大切である
- ◆友だちとかかわって遊ぶ中で生じた色々な感情を受けとめ、気持ちを言葉にして、伝えられるように仲立ちをする
- ◆一人遊びから気の合う友だち、少人数で遊ぶといった遊びの変化が見られる3歳児。保育者間で連携しながら環境構成だけでなく、保育者も一緒に遊びを楽しみ、仲立ちをしていくことや子どもたちをつないでいく援助を、これからも心がけていきたい

5. 4歳児

年度当初の子どもの姿

進級当初は、環境の変化に戸惑い、不安感や緊張感が大きかった。同時に2階の保育室になりお兄ちゃん・お姉ちゃんになったという気持ちから「これ、一人できる」「嫌いな野菜も食べれるねん」などと頑張りすぎていると感じる姿もあった。

1週間経つと、①登園時に保護者から離れにくい姿や困ったことがあっても黙って固まっている姿、泣いて表現する姿など、緊張感が和らいできて、少しずつ本来の気持ちを表出するようになっていった。



遊びの中では、昨年度に遊んでいた玩具や環境を準備したが、②やりたい遊びを見つけにくい姿があり、遊びが充実していないように感じた。

③担任がかかわろうとすると、避けていると感じるところもあり、前担任を求めている姿があった。少しずつ

ではあったが、“こうしたい”という思いを出し「先生、こんないいと思わん？どうしたらいい？」「先生やって」「先生、これつくって」と要求し、④保育者がしてくれることを待ち、一緒に必要な物をつくったり、一緒に遊んだりすることを楽しむ姿が見られた。

体を動かして遊ぶことが好きな子どもが多く、園庭に出ると、雲梯、乗り物、虫探しなどで遊ぶ姿が見られた。担任と遊びたい思いも出てきて、「先生、鬼になって」と保育者に追いかけることを喜び、保育者対子どもたちの鬼ごっこを楽しむようになった。しかし、⑤遊びが継続しにくかったり、様々な遊びに興味が変わったりする姿が見られた。



人とかかわりの部分では、個々で遊ぶ姿から、友だちに興味を示すようになり、友だちとかかわろうとする姿へと変わっていった。その中で、⑥自分の思い通りにならないことで口調がキツくなったり、トラブルになったりする姿が多く見られた。トラブルになると「もう一生遊べへん」「嫌い」とかかわりをもたず、距離をおく姿が見られた。また、発達段階の違いや特性などもあり、⑦危険予測がしにくかったり、攻撃的に友だちを叩いたり物を投げたりして、トラブルや危険な場面になることがあった。



①～⑦の【見取りのポイント】から考察した表がP28～P29に掲載中！
表の見方は第1章P3を見てね！



◆年度当初から考察した見取り、保護者の願い、環境構成・援助

【見取りのポイント】	【見取り】
<p>①登園時に保護者から離れにくい姿や困ったことがあっても黙って固まっている姿、泣いて表現する姿</p> <p>③担任がかかわろうとすると避けていると感じるところもあり、前担任を求めている姿</p> <p>④保育者がしてくれることを待つ姿</p>	<p>○新担任を受け入れにくい？保育者と信頼関係が築けていない？関係が築けると落ち着いてくるのか？</p> <p>○安定した環境を求めている？新しい環境を受け入れようと葛藤している姿なのでは？</p> <p>○自信がないのか？技術的に未熟なのか？どうすればよいのか分からないのでは？</p> <p>子どもなりに新担任とかかわろうとしている姿なのかな？</p>
<p>②⑤やりたい遊びを見つけにくい姿、遊びが継続しにくかったり、短時間で様々な遊びに興味が変わったりする姿</p>	<p>○園庭ではやりたい遊びをする姿が見られるので、開放的な空間が好き？保育室は安定した空間ではないのでは？</p> <p>○やりたい遊びの環境が準備できていないのでは？興味・関心を見取れていないのでは？</p> <p>子どもの姿を肯定的に捉えていないのでは？</p>
<p>⑥自分の思い通りにならないことで口調が強くなったり、トラブルになったりする姿</p>	<p>○安定していないことで、友だちとのトラブルが増えているのか？感情を友だちにぶつけているのか？理解してもらえない、分かってもらえないことからのトラブルなのか？友だちとかかわって遊ぶ発達段階ではないのか？一人でじっくり遊ぶ空間が必要なのでは？</p>
<p>⑦危険予測がしにくかったり、攻撃的に友だちを叩いたり物を投げたりして、トラブルや危険な場面になる</p>	<p>○子どもたちの行動を予測した危険のない環境を構成できていないのでは？特性を理解できていない？</p>

- 年度当初の保育者の願い
- ◎年度末を見据えた保育者の願い

スモールステップを意識しよう！



【保育者の願い】	【◆環境構成★援助】
<p>◎保育者との関係を基盤に安心・安定した園生活を過ごしてほしい</p> <p>○保育者を安心基地として保育者が見守る中、自己を十分に発揮してほしい</p> <p>○失敗・間違いを含め、様々な経験をしてほしい</p> <p>◎友だちと試したり工夫したりして遊ぶ姿につなげていきたい</p> <p>○やりたい遊びを存分に楽しんでほしい</p> <p>◎意欲的に遊んでほしい ◎主体的に遊ぶ姿につなげたい</p> <p>◎友だちと一緒に好きな遊びを存分に楽しんでほしい</p> <p>○自分の思いを出したり、友だちの思いがあることを知ったりする</p> <p>◎思いや考えを出し合い、折り合いをつけることで楽しい遊びになる経験をしてほしいな</p> <p>○友だちのよさ、違いなど、一人ひとりのもち味を知り、一緒に過ごす</p> <p>◎友だちと育ちあい、認め合える関係を育んでほしい</p> <p>◎一人ひとりが輝き、クラスに居場所があり、クラス集団が仲間として育ちあってほしい</p>	<p>★一緒に遊ぶ中から、好きなこと、興味・関心などを見取り、楽しさや困り感などを共有・共感して関係を築く</p> <p>★泣いたり、固まったりして表現している姿を全て受けとめ、寄り添い、表出してもいいことを伝える</p> <p>★やってみた姿や頑張りを認め、失敗しても間違ってもやり直せばいいことを経験しながら知らせる</p> <p>★保育者も仲間として一緒に試行錯誤したり、考えや思いを出し合ったりして、やってみる楽しさを味わえるようにする</p> <p>◆興味・関心や育ちを見取り、適切・的確な環境を構成する。子どもたちの姿を見極め、再構成していく</p> <p>★やりたいと思うことを実現できるように、一緒に考えながら、『やりたい』『楽しい』という気持ちを味わえる機会を多くもてるようにする</p> <p>★互いの思いを代弁し、自分の気持ちや友だちの気持ちを知る機会になるようにする。保育者が解決するのではなく、一緒に考える機会になるようにする</p> <p>★様々な育ちや文化などの違いに関係なく、一緒に過ごし、一緒に学び、一緒に楽しむことを意識してクラス集団づくりをしていく</p> <p>★友だちとの関係を深めながら、大切な存在であり、大好きな仲間と感じられるように取り組んでいく。友だちと認め合える関係性を育む</p>

◆10月の子どもの姿

やりたい遊びを見つけ、自分たちで考え工夫して、遊びに必要な物をつくって楽しんでいる。忍者ごっこがブームとなり、手裏剣づくりから「重い方がよく飛ぶやろ」「先をもってクルンってした方が高く飛ぶで」などと様々な素材で試し、投げ方を工夫している姿も見られ、友だちと刺激し合って遊んでいる。

忍者ごっこの遊びから、忍者屋敷をつくったり、修行として様々な運動遊具に取り組んだりもしている。友だちとのかかわりが増えることでトラブルもあるが、解決しようと前向きに捉えたり、互いの思いを知ることで折り合いをつけたりする姿も見られるようになっている。5歳児にも関心をもち「縄跳びやってみるわ」「リレーやろ」などと同じようにやってみたい！やってみる！姿が見られる。



◆園内研での学び

安定・安心できる環境の中でやりたい遊びを存分にすることで、友だちがしている遊びや友だちに目が向くようになるよね。やりたい遊びを存分にすることで満たされ、イラっとすることがあっても、折り合いをつけてみようと思えることができるんだよね。



十分にやりたい遊びができるようにすることが大事ってことは…
➡ 興味・関心を見取り、環境構成を工夫していこう！
違った時は再構成すればいいんだよね。



発達段階を見極め、発達に合った環境を構成することで次の段階につながっていくこと、繰り返し取り組める時間の保障の大事さも教えてもらったんだけど、難しい…。一人の保育者の目ではなく、連携してやってみよう！

遊びの中でのルールや安全な遊び方を伝えることも重要だけど、遊びの世界観の中から学べるようにすると子どもへの言葉がけも変わってくるんじゃないかな？例えば「〇〇するでござるよ」とかね。



遊びを壊してしまう子どもにはつつい「やったらダメ」「それはあかんこと！」などと注意しちゃうよね。でも、遊びの世界観に沿った言葉をかけると楽しさの中から言葉を受けとめることができるんだ。そういう考えが全くなかったので、すぐやってみよう！

◆育ちあい♥認め合いエピソード



「本物忍者やろ」

忍者ごっこがブームになり、忍者になって遊んでいたところ、折り紙で手裏剣づくりを始めた。「組み立てるだけは先生やって」と言っていた子どもたちも、繰り返しつくっていると「自分でやってみるわ」「自分でやるから、先生あっち行っといて」と自分でつくりたい思いが芽生えてきた。

保育者や子どもとのやりとり

失敗しながら、何度もやり直し、自分一人で作れるようになったA児。
A児：「できた。一人でできたで」と喜んで、みんなに見せて回っていた。
何個もつくって「またできた。本物忍者になれるかな」
B児：「オーマイガー！Bは、先生に手伝ってもらってるから、まだちびっこ忍者や」
A児：「でもさ、Bくんさ、鉄棒の修行のん、めちゃくちゃすごいやん。だから本物忍者やろ」
B児：「え？知ってるん？見せよか？」と自信いっぱい逆上がりをして見せた。
A児：「すごい」と拍手。
C児：「じゃあさ、Cもさ、手裏剣は一人で作られへんけど、忍者の巻物とか自分で考えてつくったんやで。すごいやろ？」
B児：「それは、すごいよな。C君考えるの名人やもんな」
C児：「Cが、考えるのん得意って知ってたんや」そこにいたD児と目が合うと、「Dちゃん、面白いことするのん得意やんな」
D児：(変顔をして笑わせた)
その後
C児：「A君、手裏剣分かれへんねんけど、手伝ってくれない？」
A児：「いいよ。手伝うで」と手裏剣を一緒につくっていた。2人とも嬉しそうな表情だった。



エピソードのポイント



自分でやってみようとする姿が多く見られるようになってきたよね。
(自分でやってみるといふ気持ちがでてきたことが嬉しい！)

A児は「できない」と涙ぐむことが多かったんだけど『やってみよう』が『できた』につながり自信になっているんだよね。



自分が満たされることで、他者を認める姿につながったんだよね。まさしく！個から集団へだね。

◆研究の総括



《子どもの育ち》

- ◆やりたい遊びを存分に楽しむようになった
- ◆様々なことに興味を示し、やってみたい！やってみよう！と意欲的な姿になった
- ◆失敗しても、できなくても、何度も繰り返し取り組むようになった
- ◆友だちのことを仲間として大切にし、認める姿がでてきた
- ◆「いいこと考えた」と発信・表現するようになった
- ◆様々なことを楽しめる！自分たちの遊びに取り入れていく姿になった

《保育者の学び》

- ◆一人ひとりを見取り、一人ひとりに合った援助の大切さを実感した
- ◆肯定的な言葉がけを意識すること
- ◆存分にやりたい遊びができるように環境準備・再構成が育ちの鍵となる
- ◆保育者も仲間として、子どもたちとともに考え、試し、遊ぶことは大事
- ◆安定・安心できる環境（保育者が安心基地になることが大事）
- ◆遊びの世界観を大事にした言葉がけと楽しい要素を取り入れる遊び心を持ち続ける保育者でありたい



《まとめ》

保育者が固定概念や例年通りに捉われず、意識改革することや保育者間で連携を密にとり意見を交わすことで、一人ひとりの子どもたちを多方面から見取ることができ、様々な援助を考えることができた

子どもの『今の育ち』に何が必要でどんな環境を構成すべきなのかと意識することが、子どもたちのやりたい遊びを存分にできる環境や楽しい遊びの展開につながっていったように感じる。『やってほしい』から『自分でやりたい』に変わり、『自分でできる』『自分でやる』に変わっていった。自分たちでやったことが『楽しい』につながり、『楽しい』が増えてくることで、さらに考え工夫したり、共有したりして、楽しく遊ぶ姿につながっている。

これからも一人ひとりを大切にされた保育から、子どもたちが輝き、主体的に遊ぶ姿につなげていきたい

6. 5歳児

年度当初の子どもの姿

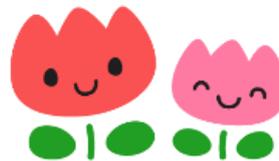
新年度の始まりは期待と不安が入り混じる子どもたちの姿が見られた。憧れの5歳児に進級したことへの喜びから、好きな遊びを見つけて、4歳児から楽しんでいたけん玉を継続してチャレンジしたり「ダンスショーつくりたい」「衣装部屋もいる」と遊びに必要な物をつくったりして遊んでいた。

自分のやりたいことやつくりたい物などを保育者に伝え、「こんな風につくりたい」「4歳の時やったから知ってるねん」「〇〇と△△いるな」と言って、遊びに必要な材料を自分たちで準備し、友だちと一緒につくることを楽しんでいた。



その一方で、①新たな環境への戸惑いから急に泣き出したり表情が強張ったりして、保育者の様子を伺う姿もあったため、両クラスの行き来ができるように配慮した。すると、安心できる友だちを見つけ自分にとっての“安心できる場所”や“一緒にいたい人”を探す様子があった。新しい環境への戸惑いや緊張を抱えていた子どもたちは、時間の経過とともに自分たちのペースで安心できる居場所を見つけ、園生活に馴染み安心して過ごすようになり、友だちと一緒に遊びを楽しめるようになっていった。また、一人ひとりの育ちや文化が違うことで、感情をうまく言葉で表現しにくい姿も見られ、一人ひとりの困り感に寄り添い、丁寧にかかわる必要があった。

遊びのイメージを共有する中で②互いの「こうしたい」という気持ちがうまく伝わらず、すれ違いやトラブルになる姿も見られた。③自分の意見が正しいと感じた時には相手に対して口調が強くなってしまうことが多かった。自分の意見をはっきりと伝えられる子どもの声を通りやすくなってしまい、言葉にできない子どもは④自分の思いを抑えてしまう場面も見られた。⑤気持ちや感情のコントロールが難しいことが課題として出てきた。



①～⑥の【見取りのポイント】から考察した表がP34～P35に掲載中！
表の見方は第1章P3を見てね！



◆年度当初から考察した見取り、保護者の願い、環境構成・援助

【見取りのポイント】	【見取り】
<p>①新たな環境への戸惑いから急に泣き出したり表情が固かったりして、保育者の様子を伺う姿</p>	<p>○新担任という新しい大人が信頼できる存在か？信頼関係が築けていないので不安も心配も大きい？</p>
<p>子どもたちなりの表現なのかな？</p>	
<p>②互いの「こうしたい」という気持ちがうまく伝わらずに、すれ違うことも多くトラブルになる</p>	<p>○伝え方や経験が十分ではないため気持ちが先走ってしまう？ ○新しいクラスで出会った友だちへのかかわり方が分からない？</p>
<p>②感情をうまく言葉で表現しにくい姿</p>	<p>○自分の気持ちを分かかってほしいという気持ちもそこに含まれている？</p>
<p>③自分の意見が正しいと感じた時、相手に対しての口調が強くなってしまう</p>	<p>○言葉での伝え方や相手の気持ちを想像する力がまだ不十分？ ○なぜ分かってくれないの？の気持ちが強い？</p>
<p>④自分の思いを抑えてしまう</p>	<p>○自分の思いを言葉にすることを諦めてしまう子どもがいる？ ○言い返したらやり返されるかもと不安な気持ちが芽生えてしまうのか？</p>
<p>⑤気持ちや感情のコントロールが難しい</p>	<p>○怒りや悲しみといった複雑な感情をどう表現するのか分からない？</p>
<p>子どもの思いをしっかりと受けとめてあげられていなかった？</p>	
<p></p>	<p>○感情を整理して言葉で伝える経験が少ない？感情をコントロールする力が未熟？心が満たされていない？愛情不足？もっと自分を見てほしい？自己肯定感が低い？</p>

- 年度当初の保育者の願い
- ◎年度末を見据えた保育者の願い

スモールステップを意識しよう！



【保育者の願い】	【◆環境構成★援助】
<p>○子どもたちが保育者や友だちとのかかわりの中で“ここは安心できる場所”と感じられるようになってほしい</p> <p>◎安心できる関係の中で、自分らしさを出しながら友だちとのつながりを深めていきたい</p> <p>○自分の思いを言葉で表現し、相手の気持ちに気づくことで互いに分かり合える喜びを育てていきたい</p> <p>◎思いを伝え合う心地よさを感じながら、相手を思いやる関係へとつなげていきたい</p> <p>○自分の意見が正しいと思う時にも、相手を受け入れ尊重して、伝える力を養いたい</p> <p>◎相手の考えを認め合いながら、互いに理解し合える関係へとつなげていきたい</p> <p>○一人ひとりの違いを大切に、一人ひとりが自分の思いや考えを安心して伝えられる集団を育みたい</p> <p>◎互いを認め合い、安心して過ごせる関係づくりへとつなげていきたい</p> <p>○様々な思いを安心して表現できるようになってほしい(クラスづくり)</p> <p>◎互いの気持ちを受けとめ合える関係へとつなげていきたい</p> <p>○複雑な感情も安心して表現できるようになってほしい</p> <p>◎自分の気持ちを大切にしながら、言葉で伝えられるようになってほしい</p>	<p>◆★一人ひとりの子どもの様子をしっかりと見取りながら子どもの『好き』を見つけ、それに合った環境を整え必要な物を子どもと準備する</p> <p>★一緒に遊ぶ中で、共感したり認めたりし、信頼関係を築いていく</p> <p>◆気持ちカードや表情カードなどを用い『今の気持ち』を選んで伝えたり、思いを伝えるやりとりを視覚化できる掲示物を整えたりする</p> <p>★伝えきれない気持ちを代弁し、思いをしっかりと受けとめる言葉がけを意識する</p> <p>◆子どもの意見をボードにまとめ、色々な考えがあることを見える化する</p> <p>★互いの思いを受け入れ、相手の気持ちを思いやることのできるように援助する</p> <p>◆気持ちカードを使い、言葉にしづらい子どもが表現しやすいように工夫をする</p> <p>★全員が思いを伝える機会を意図的につくったり、少人数の話し合いをしたりするなどの工夫をする</p> <p>★保育者のどんな意見でも受けとめる姿を見せ、モデルとなるようにする</p> <p>★失敗や悲しみを保育者が受けとめ、共感し寄り添う</p> <p>★子どもの表情や行動から思いを受けとめ言葉にすることで相手の気持ちを理解できるようにする</p> <p>◆コーナーや空間をつくるなど、落ち着いて話せる環境を整える</p> <p>★思いに共感しながら、複雑な感情を言語化し、気持ちが落ち着けるように援助する</p>

◆10月の子どもの姿

体を動かして遊ぶことを繰り返し楽しんだことで、運動会では「〇〇できるようになりたい」「運動会でみせたい！」とめあてをもち、諦めずに繰り返し運動遊具に挑戦する姿が見られた。自分だけでなく、友だちもできるようになることを願ってコツを教えたり、励まし合ったりしながら挑戦している。振り返りなどでは、できるようになったことを披露したり、頑張りを認め合える場をつくったりすることで、チャレンジの輪が広がった。また、リレー、ダンス、バルーンなど、クラス全員で気持ちを揃えて取り組む機会が増えたことで、子どもたちからも「みんなの力が必要や」「みんな頑張ろう」という声もきかれるようになり、仲間意識が高まった。



◆育ちあい♥認め合いエピソード①

ひとつのチャレンジから、大きな自信へ！

体を動かすことにあまり自信のないA児が、チャレンジタイムの中での「できた！」をきっかけに、竹馬に挑戦するようになった。これまで好きな遊びの時間にも運動遊具をしようとしなかったA児が毎日黙々と練習し、「運動会でママに見せたいから頑張る」と目標をもち取り組んだ。

竹馬に乗れるようになり自信がついたA児は、苦手な食事面でも頑張るようになり、「Aも〇〇やってみようかな」と色々なことに積極的になり、笑顔で話す姿が増えた。

保育者や子どもとのやりとり

～初めてA児が竹馬に乗れるようになった日～

保育者：「Aちゃん竹馬乗れるようになった」
(大声で叫ぶ)

「え！？！？」と周りの友だちが自分の遊びをストップして駆けつけてきた。

B児：「え～！すごいやん！乗れてるやん！」

C児：「Aちゃんずっと頑張ってたもんな」と声をかけたり、拍手をしたり、肩を組みにいって頭を撫でたりして、できるようになったことを喜び合っていた。



エピソードのポイント



ひとつの『できた』という経験がA児の大きな自信となったね。A児の頑張りを認め、自分のことのように喜んでくれる友だちの優しさがA児にとって嬉しく、次への頑張る力になったよ。

◆育ちあい♥認め合いエピソード②

～心をつなぐチャレンジのバトン～

運動遊具にあまり興味を示さなかったB児。
初めて竹馬に挑戦し、乗れるようになったことで『できた』という達成感を味わい、自信につながった。この経験をきっかけに、少しずつ他の運動遊具にも挑戦する姿が見られるようになってきた。友だちからの刺激を受け、縄跳びにも興味をもち繰り返し挑戦するが、思うように跳べず、悔しさから部屋を飛び出してしまふ。しかし、友だちから励まされ、応援してもらったことで気持ちを立て直し、『もう一度やってみよう』と再び挑戦する姿が見られた。



保育者や子どもとのやりとり

C児：「ここをこう回して！」
B児：「できへん！」（何度もやってみるがうまく跳べない）
（B児が部屋から飛び出し逃げ出してしまう）
C児：「あっ！」（B児を追いかける）
気づいた他の子どもたちもB児のもとへ・・・
数名の子ども：「どうしたん？」「できへんかったから泣いてるねん！」
C児：「教えてただけやねんけどな。できるようになるから」（頭をなでている）
D児：「大丈夫やで！私もその気持ちになったことあるから」
E児：「はじめはみんなできないねん！〇〇も〇〇もできへんかったから！」
F児：「〇〇もできへんって言ってたけど、諦めてへんねんて、どうする？」
G児：「お部屋いこう！教えてあげるから絶対できるから」
（G児が手を差し出し部屋へ連れて戻ろうと声をかける）
（B児は、言葉はなかったもののみんなの言葉を受けとめるかのようにG児の手をにぎり一緒に部屋へ戻る）
（他の子どもたちも後ろからついて一緒に部屋へ戻る）



G児に手を引かれながら一緒に戻ってきたB児は、再び縄跳びに挑戦した。友だちに見守られ励まされながら、『もう一度やってみよう』と立ち上がるその姿から、諦めない気持ちと、仲間を支えられる温かさを感じた。

エピソードのポイント

友だちの姿に刺激を受けたり、悔しさを感じた時に励まされたりと仲間の存在がA児の気持ちを支えたよね。（仲間の存在が挑戦を支える力となった）



思うようにできずに部屋を飛び出すほどの葛藤を経験しながらも、気持ちを立て直し再び挑戦する姿や感情をコントロールしようとする姿に粘り強さが感じられたよね。
（悔しさを乗り越える姿に心の成長が見られた）

◆研究の総括



《子どもの育ち》

- ◆自分から『やってみよう』と意欲的な姿が増え、失敗しても諦めずに繰り返し挑戦する姿が増えた
- ◆自分の思いを言葉で伝えたり、相手の気持ちに気づいたりしてかかわろうとする姿が見られるようになった
- ◆友だちと助け合いながら色々なことに取り組む姿が増えた
- ◆感情のコントロールが苦手な子どももいるが、落ち着くと、自分の気持ちを伝えられるようになってきた

《保育者の学び》

- ◆子どもが安心して自分の思いを出せるように、受けとめるかかわりや共感的な言葉かけが大切
- ◆友だちとのかかわりを丁寧に支える必要性を感じた
(思いがぶつかる場面ではすぐに介入せず、子ども同士が自分の言葉で伝え合う時間を大切に見守ることで、関係が深まると感じた)
- ◆一人ひとりに応じた保育者のかかわり方で、子どもの姿が変わることを実感した(見守る・励ます・共感するなど、かかわり方を工夫することで、子どもの主体性や自信が引き出される)



《まとめ》

- ◆失敗をマイナスに捉えず、プラスに捉えるクラスづくりを積み重ねてきたことで、安心して気持ちを伝え合おうとする姿が増えてきた
- ◆仲間と一緒に取り組む喜びを感じながら、心の成長(挑戦する力・共感・人とのつながり)が深まってきた
- ◆成功体験を通して自信をつけていく中で、友だちの頑張りや友だちの気持ちにも目を向け、認め合おうとする姿につながった

7. 一時預かり（くまぐみ）



◆子どもの姿

一時預かりを利用する子どもは保護者と初めて離れることも多く、不安や寂しきで泣く姿がよく見られる。毎日登園する在園児とは異なり、利用日の間隔が空くことで、関係づくりがゼロからスタートになることもある。そんな中でも保育者が安心できる存在となることで笑顔が見られるようになり、他児や異年齢児とのかかわりにも興味を示すようになる。園生活に刺激を受けながらゆっくりではあるが、一人ひとりの成長や変化が感じられる。

子どもの利用回数が違うため、園での過ごし方に差が見られる。利用回数の少ない子どもは、母子分離が難しく、泣いて保護者から離れにくい姿が多く見られる。食事や排泄などの生活リズムを把握することが難しいため、園の流れと合いにくく、他児とのかかわりにも消極的な傾向を示す。一方、利用回数の多い子ども（他園の利用を含む）は、保護者とスムーズに離れることができ、自ら好きな遊びを見つけて遊ぼうとする姿が見られる。生活の流れを理解し始め、保育者との信頼関係も形成されていく。

また、その日に利用するメンバーの組み合わせによっても、子どもたちの安心感や遊び方に違いが生じる。1人が泣くことで、慣れている子どもまでも不安な様子を見せることがある。また、年齢の異なる子どもが同じ保育室で過ごすため、活動や休息のタイミングが合わず、個別の対応が求められる。



◆課題

1 母子分離の難しさへの支援

利用回数の少ない子どもは特に、保護者との分離が難しく、情緒が安定するまで時間がかかる。

2 生活リズムの個人差への対応

食事や排泄など、家庭と園の生活リズムが合わず、園での流れに乗りにくい子どもがいる。年齢によって食事や午睡の時間が異なる子どもに個別対応をするため、子どもを待たせてしまうことがある。

3 他児とのかかわりの広がり

集団に慣れていない子どもが多く、保育者との1対1のかかわりを求めがちである。他児とのかかわり方が分からず押してしまったり、玩具をとってしまったりすることもある。

4 利用メンバーの変動による影響

利用メンバーによって安心感や遊び方が左右され、1人が泣くと全体に不安が広がることもある。1・2歳児には集団遊びや行事への参加などの経験を積ませてあげたいが0歳児がいることで、十分に応じられない場面もある。

◆保育者の願い

- ◆園に来ている日を一人ひとりの子どもが自分らしく輝けるようにしたい
- ◆短時間の利用であっても、園での生活が心地よく、元気いっぱい楽しめるような安心感と充実感を感じられるような活動をしたい
- ◆集団遊びや行事の参加など、家庭では得難い経験を提供していきたい
- ◆0歳児が落ち着いて過ごせる環境と、1・2歳児が伸び伸びと活動できる環境の両立をしたい

◆環境構成・保育者の援助

- ◆一人ひとりに合わせて担当保育者を固定する
- ◆家庭生活の情報を、丁寧に共有する
- ◆前回の利用で興味をもっていた物や、家庭での好きな遊びを把握し、気持ちが切り替わるきっかけになりそうな物を事前に準備しておく
- ◆1・2歳児が戸外に行っている間に0歳児が朝寝や離乳食を行うなど、工夫して時差をつけ、それぞれの生活リズムを保障する
- ◆休息と活動のスペースを分けるなど、利用メンバーによって環境構成を変える
- ◆安心できる関係を基盤に、他児とのかかわりを少しずつ広げていく
- ◆前回利用時のダイアリーを見返し、一人ひとりの特徴を確認しておく
- ◆ダイアリーの記入時は生活リズムや好きな遊びなど、次回見直した時に知りたい情報を書き込むようにする
- ◆利用メンバーの子どもの姿に応じて、1日の流れや保育者の連携を考え準備しておく
- ◆予測していた姿とその日の姿が異なる時は、保育者間で連携をとりながら個々の生活リズム、情緒に応じて柔軟に流れや環境を見直し、保育を立て直す

《安心できる環境の中、自分らしさを発揮しはじめている姿》

- ◆保育者に見守られながら安心して眠れるようになった
- ◆友だちに玩具を貸したり、名前を覚えて呼びかけたりするようになった
- ◆登園するとすぐに好きな遊びを見つけ、泣きやんで遊べるようになった



《育ちあい認め合うくまぐみ》

- ◆保護者との信頼関係が深まり、心配事を相談してくれるようになった
- ◆保育者間で連携することによって、子どもの生活リズムと遊びを保障できた
- ◆事例研では、クラスとは違う悩みを発信したり、認めてもらったりしてよい学びの機会となった

今後も子ども、保護者、保育者が心地よいかかわりの中で育ちあい認め合いながら、自分らしく楽しく保育していきたい

8. フリー

年度当初、フリーとして何を大事にしていくかを共有しながらクラスフォローや園内の環境整備などを進めていった。フリー集団としては経験の差はあるものの、それぞれの持ち味を活かし、『助け合いの輪』を広げていくことを意識している。

一人ひとりが自分らしく輝ける『得意』を保育や業務に活かしていけるよう努めている。

◆縁(園)の下の力持ちとしての願い・思い

- ◆子どもたちや保育者の安全・安心につながるよう、それぞれの学年、学級の運営が円滑に進められるように担任との連携を密にし、保育のフォローや環境整備をしていきたい
- ◆子どもの成長や心の動きを保育者間・保護者とも共有し、育ちあい認め合える関係性を築いていきたい
- ◆職員間の意思疎通がとれるようなツールや打ち合わせの場などを設けていき、有限な時間・人を少しでも多く子どものために使っていきたい
- ◆保育者の入れ替わりにかかわらず、子どもが『いつも通り』、『安心して』自分らしく過ごせるような保育をしていきたい
- ◆園が全ての子ども、家庭にとって安心できる心地よい場となってほしい



◆子どもも大人も心地よく過ごすための課題

- ◆会議などがあると、担任が実質的な休憩をとりにくい状況がある
(保育者の心身の疲労は子どもへのかかわりにも影響するのではないかな?)
- ◆限られた職員体制の中で、フリー業務の進捗状況などの共有が難しい
- ◆園内環境を整備するが、その意識を全職員に周知することが難しい
- ◆様々な学年・学級に入るのに際して、子ども理解やかかわり方、保育の進め方には戸惑いや迷いが生じやすい
- ◆様々な背景がある家庭や子どもの困り感に対して継続的にかかわりにくいので、難しさやもどかしさを感じる

◆工夫したこと

- ◆休憩・ダイアリーカバーとして人員を立て、保育から離れられる時間を保障できるようにする
- ◆遊びや活動の進行状況によっては担任の思いをきき取り、カバーに入る時間帯を柔軟に対応できるようにする
- ◆職員間での声のかけ合い、コミュニケーションをとることを意識的に行い、業務の進捗状況を可視化・共有できるようボードを新調する
- ◆管理職にも同席してもらってフリー会議を定期的に行い、行事に向けての準備や日々の保育、業務内で感じていることや課題などを共有し、『チーム西郡』で支えていけるように改善していく

- ◆カバーで保育に入る際は、事前に担任から子どもの様子やねらいをきいたり、ダイアリーで遊びの軌跡や援助方法を読み解いたりしておくようにする。事後もダイアリーや口頭で子どもの姿を共有する
- ◆それぞれの学級で大切にしていることを汲み取り、生活の手順やかかわりが普段と変わらないよう心がけ、丁寧にかかわっていく
- ◆家庭支援にかかわる情報をキャッチできるようにアンテナを張っておく
- ◆支援が必要な場面に居合わせた時は、それぞれのケースに応じたかかわりをするように心がけ、担任にも共有する。また、担任がかかわった方がいい場合はその間の保育を担うようにしていく
- ◆子どもの思いが保護者に伝わるようにかかわることは大前提で、保護者のありのままの思いを受けとめていくことも意識していく

◆園内の環境整備



寄付の衣料をままと
道具にアップサイクル！



危険物拾いの時に
挙がった声から園庭
にゴミ箱を設置☆
ティッシュも併せて
使えるように♪



1歳児のかけ湯
用の目隠しを防
水素材にアップ
デート！



子ども、保護者へ
の啓発でポスター
を作成、掲示しま
した☆



パッチワーク
つい立て♡



剪定した枝をそよかぜ万博(特別保育)の入場ゲート
に活用！当日は撮影スポットになっていました♡



<マットの修繕☆>
通訳職員も協力してもら
い、チーム西郡で子どもた
ちの遊びを支えています！

縁(園)の下の力持ちとして、子どもを肯定的に見取り、
担任に伝えているね！報連相もしっかりとれているよね！



いつもにぎやかで明るくて相談しやすい雰囲気だよね！
担任たちにとっても安心でき、頼れる存在だよね！





第3章

魅力あふれる園づくり



亀のながちゃんもニコリ！

みんな Smile

にしごおりそよかぜこども園
子どもたちの笑顔のために、先生、看護師さん、調理さん、栄養士さん、通訳の先生みんなが丸となっていることを表現



今日も笑顔が咲いてるよ！

あたたかい園、助け合い、相談し合える、子どもも大人も楽しい空間、それらのパワー（栄養）をもらって育ちあい、スマイルの花が咲く園であることを表現



子どもの笑顔あふれるこども園
「やってみたい！」のキラキラ笑顔や存分に楽しめている充実感あふれる子どもたちの笑顔を全面に表現

第3章 魅力あふれる園づくり

1. 魅力あふれる園に！西郡らしく！楽しく！同僚性を高めよう！

学習会では対話を大事にしなが、それぞれの意見を尊重し合える風通しのよい関係性と職場環境を築いてきた。アイスブレイクを活かして、互いを知るきっかけづくりや職員間の会話につながるような内容を考えた。『チーム西郡』を合言葉にして『西郡らしさ』を大切に、楽しみながら研究テーマに迫れるように努めた。

まずは、研究テーマについて(詳しくは、P3第1章(4)大切にしたい視点について参照)と『どのような園・学年にしたいか』などめざす方向性を共有した。そして、子どもたちと向き合う保育者自身が自分らしく輝き、互いのよさを認め合うことが大事だと考えた。そのためにも職員間で対話を重ねながら同僚性を高め合いたいと、2年目の研究をスタートした。

園内学習会の一部を紹介！

魅力あふれる
園づくり

4月：『どのような園・学年にしたいか』

♡子どもも大人も楽しい♪あたたかい園♡

♡心地よいそよかぜのような 気持ちが優しくなれる園♡

0歳児
安心して居心地がよい！

1歳児
思いを存分に出せる！

2歳児
子どもの『今』を
見逃さない！

3歳児
『それいいね！』
『やってみたい！』を実現！

4歳児
主体的に遊び、
充実した園生活を！

5歳児
自信をもって取り組む
相手の思いを考えられる！

園長・副園長・主幹

フリー・一時預かり

安全♡安心♡肯定的
伸び伸び♪生き生き♪
豊かな物的・人的環境
家庭ではできない経験がたくさんできる！

自分らしさ

5月：『プロフィール紹介』、『心理テスト』

自分らしさ輝く「私の好きなこと」「私って実は〇〇なんです」



『自分の好きなこと』、『実は私って〇〇なんです』などのプロフィールをみんなで共有し、保育者同士の理解を深めました。心理テストも交えてグループ分けすると、西郡は協調性に富んだ人が多数の結果に！「当たってる～！」「〇〇が好きなんや！一緒やわ！」など、学習会後も職員間でワイワイ盛り上がりました！

認め合い

6月：『褒め言葉のシャワー』



嬉しかった！（泣）

認めてもらえて安心した
自己肯定感が高まる

みんなで連携して
いこうと思えた

頑張ろうと思えた！
明日からの
意欲につながる！

言葉にすること
大事だと思った

よいところはそれぞれ違う！
協力し合う！

子どもたちのよいところに目を向け
それぞれのモチ味をみんなで共有する機会をつくる

※職員の感想まとめ

職員同士、互いのことが分かってきた時期に学年間で『褒め言葉のシャワー』をかけ合いました！互いを認め合って、さらにより関係性を築くきっかけに！褒められることは大人でも嬉しい！それはきっと子どもたちも同じはず！子どもたちの『よいところ探し』をして、一人ひとりのモチ味を尊重することが大事だと再確認しました！

園のよさ

7月：『園のよさ・魅力発信ポスターづくり』『学年のよさ自慢』



※玄関ホールに掲示

保育者自身が園のよさを語れることは、保護者の安心感にもつながるはず！自分たちでよさを出し合うことでより意識して保育できる！30分の制限時間内で『園の魅力発信ポスター』をつくりました！作業を通してチームワークも強化！保護者だけでなく、地域にもポスターを掲示して園のよさを発信！学年のよさも自慢し合いました！

【保護者からの感想】

- ★クラスの先生だけでなく、フリーの先生、調理の先生、保健の先生もみんなで一丸となって園が成り立っているんだなとポスターを見て改めて思いました！
- ★先生たちの愛がすごく感じられて、この園に子どもたちを預けられてよかったなと思います！いつもありがとうございます！
- ★笑顔あふれるこども園ということがポスターそれぞれから伝わります！ など

2. 子ども真ん中♥チーム西郡！保護者とともに育ちあおう

子育て真っ最中の保護者の様々な思いや価値観を大切にしながら、子どもを愛おしく感じ、『成長とともに喜び合いたい』『保護者の悩みに寄り添いたい』との思いのもと、今年度も2つの取り組みを通して、『チーム西郡』として育ちあえるようにした。



全職員で共有

年度当初の学習会で、子どもの姿を共有した。写真を活用したり、前年度の担任より具体的な支援方法をきいたりして多面的な見取りができるようにした。また、保護者の子育ての悩みにも寄り添えるようにし、全職員で共有してきた。



たくさんの職員で共有すると、より多面的な見取りができるよね。担任だけでは見られない一面が見られたり、色々な意見をきけたりできていいよね！
年度初めの学習会で言うことが、ポイント！写真があることで分かりやすく、よい機会になった。『チーム西郡』として子どもを真ん中に教育・保育を進めていくことが育ちにつながると確認し合えたね
1人で悩まない！抱え込まない！報連相！の大事さを実感できた

学級懇談会

園からの伝達事項だけで終わるのではなく、保護者同士が話しやすい雰囲気づくりを大切に、保護者同士の出会い、つながりあう機会と考えた。



雰囲気づくりの1つにアイスブレイクを取り入れ、互いに心をほぐしてから懇談会をスタートした。
4月初めの懇談会は、園長、副園長、主幹が各クラスの懇談会に自己紹介を兼ねてお邪魔し、コーディネーターとしての役割を紹介した。悩みに応じてどこへ相談にいけばよいか明確になり、担任以外にもできるコーディネーターがいることを知れ、安心感になったようです。



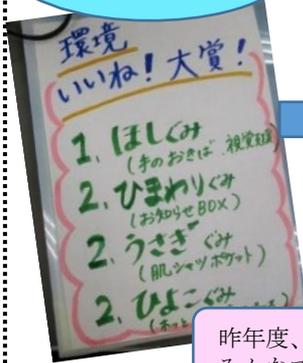
アイスブレイクでの保護者の笑顔がステキでした。(リラックスって大事ですね) また、日頃からちょっとした保護者の変化に気づけるように努め、すぐに声をかけることを心がけています。保護者が安心できるような言葉がけをし、悩みを打ち明けてくれたり、子どもの成長とともに喜び合えたりすると嬉しいですね！担任だけでなく、主幹も家庭支援担当者もステキな笑顔で、なにげない会話からつながりを大切にして、『チーム西郡』で保護者の子育てを支えます。

- ・懇談会の出席率が高い！（参加人数も年々増えている）
- ・休んだ人も後日個別対応で伝えています。

3. 誰もが分かりやすい環境づくり・安心できる空間づくりをめざして

インクルーシブ教育・保育の基本である、誰もが分かりやすい環境づくり・安心できる空間づくりを昨年度から試行錯誤してきた。保育者自身も大事な環境！子どもたちへのかかわり方や言葉がけなども振り返ってきた。保育環境にも目を向け、①場所②時間③活動④視覚的な手がかりの4つの視点を大事にしながら、基礎的環境整備をして保育を進めてきた。

西郡環境工夫 写真ファイル



いいね!
大賞!



昨年度、環境いいね!大賞!を
みんなで選びました!



全クラスの環境写真をファイリングして
みんなで共有!環境づくりのヒントに!

☑ 自己点検シート

- 穏やかな声で言葉がけをして、かかわっていますか?
- 端的に分かりやすく言葉がけをしていますか?
- 肯定的な言い方をしていますか?
- 子どもが守れること、できることを指示していますか?
- 「いや」の訴えを受けとめていますか?
- 子どもの言動に巻き込まれていませんか?
- 子どもの理解に合わせた指示の出し方をしていますか?

いくつチェックが
ついたかな?
子どもにとって分
かりやすい伝え方
って大事だね!



ホッとステーション♥



安心・落ち着くスペースづくり

一人で集中して遊べるよう
に、興味のあるものを用意
して、絵本を読んだり、玩具で
遊んだりできるスペースを
つくりました!



誰もがホッとくつろげるス
ペースをつくりました!個別で
絵本を読んだり、集中できる
手づくり玩具で気持ちをクル
ルダウンさせたり...
保護者の方も登降園時に親子
の時間を楽しんでいます!

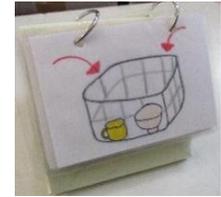
①場所の構造化



使用しない時はカーテンで目隠しして、目から入る刺激を減らして落ち着いて過ごせるようにしています！

<お知らせBOX>
話す順番の見通しがもてるように、つくったものを置いておくスペース。(数字を書いて順番が分かるように！) 見通しがもてることで、話もよくきけるようになりました！

③活動の構造化



次の行動が分かるように！
めくるバージョンと縦型の先の見通しがもてるバージョン！

その他

スーパーボールが入った座布団で感覚を刺激して椅子に座れるように工夫しました！

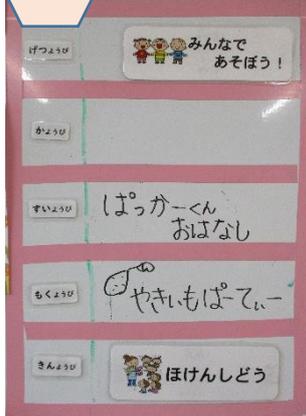


②時間の構造化



年齢の高いクラスでは1か月の予定表を貼り、少し先の見通しをもてるようにしています！

週



日



④視覚的な手がかり



着替えの手順



<気持ちカード>
自分の気持ちを表すカードを使って保育者や友だちに伝えられるようにしています！



“背中ピン！”で座ろうね！

4. 育ちあい・認め合う

【乳児】育ちあい認め合う種をまこう🌱～保育者の土壌（土台）づくり～

	0歳児	1歳児	2歳児
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して園生活を楽しめるように担任が安心基地になったことで、探索活動も楽しむようになり、様々なものに興味をもつようになった ・子どもたち一人ひとりが、喃語や指差しなどで、自分の要求を伝えるようになってきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当保育者とのかかわりを通して、安心して過ごせるようになった。また、『自分でしたい』『いや』と思いを伝えるようになった ・保育者の姿から、友だちの頭をなで「大丈夫？」ときき、友だちに興味を示すようになった 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者とのやりとりの中で、自分の思いを簡単な言葉で伝えようとするようになった ・自分のしたい遊びをじっくりと楽しむことで、友だちと一緒に見立て遊びを楽しむようになってきている
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">受けとめられる安心感の中で、育ちの根っこになる</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">“自分でしたい”の芽が伸びる時期</div>
保育者の土台（大切にしてきたこと）	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの生活リズムを把握し、家庭と同じリズムで過ごすことができるように、家庭との連携を密にする ・担当保育者との1対1のかかわりを基本に、同じ手順にすることで情緒の安定を図り、子どもの安心感につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して、様々な方法で自分の気持ちを表現できるように温かい雰囲気努める ・保育者のかかわる姿が子どもたちのモデルになることを考え、子どもたちに寄り添ったり、穏やかな言葉かけをしたりするように意識する 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当保育者との信頼関係を大切に、子どもたち一人ひとりのありのままの姿を肯定的に見取る ・したい遊びがいつでもできたり、友だちとかかわって遊べたりできるように、保育室内の環境を子どもの姿に合わせて再構成する

初めての外の世界が、安心して心地よい場所になるように、保護者との連携を大事にして、子どもたちとの関係を築いてきたね！先生たちの温かいまなざしとかかわりによって、ありのままの思いを表出し、伸び伸びと過ごしていたよ！

【0歳児】

一人ひとり安心して過ごせるよう、担任間で意識しながら応答的なかかわりをしていたね。子どもたちにしっかり安心基地ができ、そこを土台に色々なことに興味や関心を寄せているのだと思います。イヤイヤも肯定的に見取り、保育者間の連携も光っていたよ。【1歳児】



個性豊かな子どもたちと愛着関係を築きながら、思いを受けとめ肯定的に寄り添おうとしていましたね。『トラブルは相手の思いを知るチャンス！』保育者の連携、環境構成を大切に子どもの成長を信じていきましょう！【2歳児】

【幼児】育ちあい、認め合う種から芽がでてきたよ



	3歳児	4歳児	5歳児
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたち一人ひとりが自分の思いを様々な形で表現し、担任に受けとめてもらえる安心感につながっている 遊びや生活の中で、友だちとトラブルになるが、自分の思いを伝え、友だちの思いにも気づくようになってきている 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの楽しさを味わうことで、自分たちで遊びを考えたり、友だちと一緒に楽しんだりするようになってきた 遊びの中でのトラブルについても、自分たちで考えを出し合うようになってきている 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで遊びを進めたり、トラブルを自分たちで解決しようとしたりするようになった（仲間意識の高まり） 年下の子どもたちへのかかわりから、年長児としての自信をつけ、園生活を主体的に楽しむようになってきている
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">“友だちと一緒に”の楽しさを知る</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">“自分たちで考え、つくり出す”力が育つ</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">“思いやりと自信”をもって生きる姿へ</div>
保育者の土台（大切にしてきたこと）	<ul style="list-style-type: none"> 様々な課題をもつ子ども一人ひとりを丁寧に見取り、安心して自己を表現できるようになってほしい 子どもたちの言葉にならない思いを汲み取り、気持ちに寄り添いながら言語化し、子どもたちをつなげていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> やりたい遊びから好きな遊びになっていくようにし、主体的に遊ぶ姿につなげていきたい トラブルになる場面を丁寧に見取り、自分の思いを伝えたり、友だちの思いを知ったりし、折り合いをつけながら、一緒に遊ぶ楽しさを積み重ねられるようにしていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたち一人ひとりが自分の思いや考えを安心して言えるような仲間づくりをしていきたい（自分らしさ） 友だちと思いや考えを共有し、さらに考えたり、伝えたりしながら、工夫したり、協力したりすることで、充実感が味わえるようにしていきたい

様々な形で自分を表現する子どもたちと根気強くかかわり、悩みながら子どもたちの思いを大切にしていたね。「いつするの？今でしょ！」を合言葉に、子どもたちの遊びの環境も構成し、子どもたちの成長につながったね。【3歳児】

クラス担任との信頼関係を基盤に自信をもち、挑戦する姿や友だちのよさに気づき、一緒に遊びを工夫するたくましい姿に成長しましたね。生き生きとした表情に自分らしさの輝きを感じます。【4歳児】

思いが素直に表現できなかったり、友だちの気持ちに気づけずトラブルも多かったりしたけど、それぞれの思いに寄り添い、その都度話し合いを重ねてきたね。その姿が見本となり、子どもたちも友だちの思いに寄り添えるようになってきて、育ちあい認め合える姿になってきたね。

【5歳児】



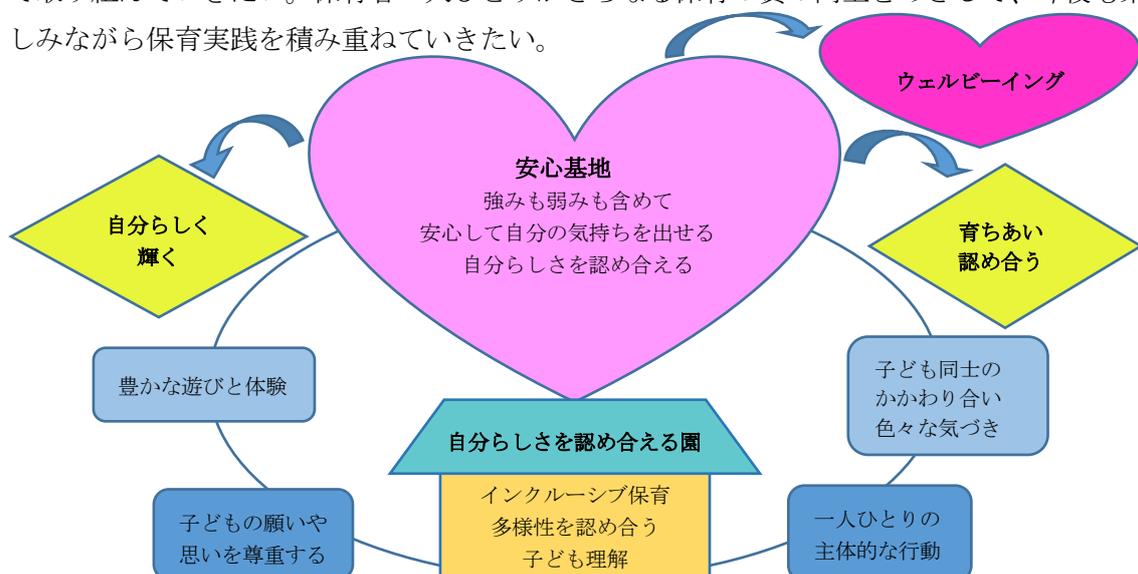
5. 研究を通して分かったこと

2年間の研究を通して、様々な家庭環境や生育歴・文化など、個性をもつ多様な子どもたちが『どの子ども“自分らしく輝く”ためにはどうしたらよいか?』を考え保育実践を積み重ねてきた。その中で、一人ひとりを尊重し子どものありのままを受け入れ、安心できる環境をつくり、心理的・生理的欲求に応える保育者が温かいまなざしで見守ることによって、安心感を土台に『やってみよう!』と挑戦しようとする心の変化が見られた。『見てほしい』『認めてほしい気持ち』が満足することでしたい遊びややってみようという気持ちが芽生え、自ら遊ぶ姿につながっていった。そして、子どもたちの楽しんでいる姿を手掛かりとし、遊びが広がるような環境を再構成することで、友だちの存在にも気づき、かかわって遊べるようになっていった。

各クラスの実践を通して、安全・安心を土台に、自分の気持ちをありのまま出せることや、自分らしさ(もち味)を認め合えること、一緒に問題解決して支え合える仲間がいることで、子どもたちが一人ひとり生き生きと輝き、自分らしさを発揮できると分かった。そして、一人ひとりの頑張る姿を周りの子どもたちと共有することで、友だちにも目を向け、友だちの頑張る姿も喜び合えるようなクラスづくりにつながった。また、子どもが保育者の援助をモデルにしながら、誰かの役に立つという自己有用感や自己肯定感を感じるようなクラスづくりが大事だと再確認できた。

そして、私たち保育者自身も試行錯誤を繰り返し、保育者間で相談しながら連携して保育をすることで、ともに悩み、ともに喜び合い、認め合いながら“育ちあっている”と感じる。それは、まさしく子どもの育ちと同様に保育者自身も職場の温かい雰囲気や職員間の関係が安心感につながり、それらを土台に自分らしさを発揮して生き生きと保育することにつながっていると言える。

保育実践は決してうまくいくことばかりではなく、悩み苦しむことも多い。だからこそ、困った時に助け合える『チーム西郡』の仲間たちと支え合いながら、今後も子どもを真ん中に保護者・地域を巻き込みながら、愛と笑顔あふれる西郡そよかぜこども園になるよう全力で取り組んでいきたい。保育者一人ひとりがさらなる保育の質の向上をめざして、今後も楽しみながら保育実践を積み重ねていきたい。



6. おわりに

一昨年の年度末に「令和6・7年度の研究園になりました」と報告をした時、職員の“やるぞ”という希望に満ち溢れた表情と“大丈夫かな…💧”という気持ちが入り混じった大きな拍手で1年目の研究がスタートしました。

1年目は職員間でたくさん語り合い、子どもたちにとっての心地よい環境をめざしてきましたが、保育には正解がない分、これでよかったのか？あの時こうしておけばよかった…と日々悩みの連続でした。ただ、研究を進める中で正解を求めるのではなく、子ども一人ひとりが日々心を動かし、嬉しい事も悲しい事も悔しい事も自分らしく表現できているか。その思いを受けとめる私たちを、鏡として子どもたちが見ていることも意識するようになりました。そして色々な気持ちに出会いながら、周りの友だちと一緒にいることが心地よい場所になるための環境を整え、全力で援助し奮闘する職員の姿がそこにはありました。

この2年で、子どもたちは本当によく遊ぶようになりました。「園長先生、ちょっと来て」と私の手を引き、連れて行ってくれる先は、どの子どもも自分がつくった遊びが“すごいやる！面白いからやらしたるわ！”と自慢げに見せてくれます。その1つ1つに担任のさりげない環境構成や援助が入っていることが分かるのです。つくっていく過程がこの子どもにとって本当に楽しいものになり、自慢したくなるものになっているんだなと…。そこには友だちが集まり、遊びながら困り感も進化に変え、さらに楽しむ子どもたちの姿を見た時に、研究を通して学んできたことが職員一人ひとりの大きな財産になっていると感じました。

また、保育者一人ひとりが毎日を振り返り、失敗を恐れずトライ&エラーで子どもとともに楽しめる自分になることをめざしてきましたが、うまくいくことばかりではありませんでした。心が折れそうになった時には鶴教授からいただいた『**前向きに諦めることも大事**』という言葉の思い出し、取り組んできました。子どもたちの姿には時間がかかることやうまくいかないこと、トラブルなどがたくさんありました。それでも無理に変えようとするのではなく、一人ひとりの『**今**』を**まずは受けとめ、待つこと。信じること。**それが『前向きに諦める』なのだ^と教わりました。

この2年の研究の歩みは決して平坦ではなく、でこぼこ道でしたが、子どもを理解しようと語り合う中で職員一人ひとりが互いを認め、支え合うチームへと育ってきました。それが子どもたちの安心と挑戦を支えていることを実感します。そんな運命の出会いを果たした子どもたちに愛情をいっぱい注ぎ、^{くるたの}苦^{たの}しみながら日々の保育に奮闘する『チーム西郡』のメンバーを私は誇りに思います。

これからもそよかぜのように、優しく温かな風が園いっぱい流れ、子どもも大人も自分らしく輝ける園であり続けたいと思っています。

最後になりましたが、本研究にあたりご指導・ご助言を賜りました武庫川女子大学 鶴教授に愛を込めて心より感謝申し上げます。

また、この研究にかかわってくださった全ての方々に心から感謝申し上げます。

この出会いと学びが、私たちのこれからの保育を照らす風となることを願って――。

上田園長先生、そして西郡そよかぜこども園の先生方との出会いは、2022年12月27日でした。大阪府教育センターの「幼児教育人権研修 分科会 障がい理解」の事例発表を無理にお願いし、この日に園の保育を見学させていただきました。その時の子どもたちが楽しく遊び、先生方が子どもたちのために細やかに保育をしていたことは忘れません。それ以来、縁があり、保育を見学し、話し合いをする機会をいただきました。子どもたちや先生方と接することは、私にとって本当に素敵な時間でした。

そのような中、教育センターより2024年2月末に西郡そよかぜこども園が「令和6・7年度 幼児教育研究」に取り組むことになり、私に指導をお願いしたいと連絡がありました。打ち合わせをしながらこの大役を務められるのか、保育の後に1時間半も話せるのか等と思いつつ、西郡の子どもたちと先生たちに会いたい一心で引き受けました。

2025年4月より幼児教育研究が始まり、私は年4回の公開保育（園内研究会）に参加することになりました。公開保育前に保育指導案と、クラスの様子・担任の先生の悩み等がまとめられたものが送付され、それを読み込んで資料を作成し、公開保育に臨みました。その際、私は研究テーマの『自分らしさ輝く』と『育ちあい認め合う』を常に意識していました。

公開保育のたびに、子どもたちが楽しそうに遊び、深く学び、育ち合う姿を見ることができました。これは先生方が子どもたちの姿を丁寧に見取り、それに合わせて子どもたちが遊びたくなる魅力的な環境構成と、子どもの状態や遊びの状況に応じた援助があったからこそでしょう。保育に正解やマニュアルはありません。ただ、先生方は特に、日々の保育において、次のような援助を大切にしているのではないかと感じました（あくまで個人的見解です）。

- ①待つ姿勢。子どもたちが自分で（自分たちで）あれこれ考えたり試行錯誤したり、問題を解決したりすることを待っていました。
- ②様々な言葉がけ。先生方は①と関連して子どもが自分で気づき、考えるような言葉「どうしたらいいかな?」、「〇〇君、どんな気持ちだろう?」等をかけていました。また、課題・目標を焦点化する言葉（深い学びを導く言葉）「ここ、どうする?」、「〇〇はなんでだろうね」等や、賞賛・受容する言葉「なるほど! そうだね」、「〇〇ちゃんの××みて、すごいね」等もよく見られていました。

そして、子どもたちが『自分らしさ輝く』と『育ちあい認め合う』とき、年齢や発達等により差はありますが、子どもたちの内面には以下のようなものが生成されていたと思います。

- ①安心感：遊びや生活の土台となる先生や他児、クラスに対する安心や信頼
- ②持続する意欲：好奇心、期待感、憧れ、感動等
- ③気づき：発見、問題解決、見通し、工夫等
- ④自己肯定感：達成感、満足感、自信等
- ⑤友だちとかかわり合う心地よさ：一緒に遊ぶ楽しさ、一体感、友だちやクラスでできた喜び等

2年間、多くのことを学ばせてもらった私が一番得をしたなど実感しています。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった上田園長先生をはじめ、西郡そよかぜこども園の先生方、また、関係者に深く感謝します。

令和7年度 八尾市立西郡そよかぜこども園

幼児教育研究

【①ひよこ組】

半田 充代
大橋 芽依
原 喜子

【①うさぎ組】 【①りす組】

大谷 亜紀 森安 文子
眞下 大輔 岡田 光穂
朝長 裕子 飯島 未来

【②ぞう組】 【②きりん組】

津田 照起 豊田 梨沙
原 緋登美 清水 彩
宿利原 三紀子 金田 由美

【③いちご組】 【③もも組】

土井 めぐみ 井藤 みゆき
原 ひおり

【④さくら組】 【④ひまわり組】

村川 潤弥 戸谷 有希
横山 江津子 武田 留奈

【⑤そら組】 【⑤ほし組】

浅田 有希 久保 諭香
白鳥 彩佳 田渕 健太

【主幹保育教諭】

奥野 由美
鈴木 優子
松尾 充代
泉 友希

【朝夕保育教諭】

三浦 愛
鈴木 智子
高本 博美

【一時預かりくま組】

木村 有紀子
富山 恵理

【園長】

上田 愛

【看護師】

後藤 道子

【副園長】

今井 佳津子

岡本 育子

【事務員】

【通訳】

山田 羅萃

國中 桃香

【調理員】

岡島 年伸
長野 江美
村田 耕三
今重 晴美

【栄養士】

前田 晴香
小林 和美

さいごまで
よんでくれてありがとう♡

【研究協力】

武庫川女子大学
教授 鶴 宏史



【西郡のアイドル♡】ながちゃん

【フリー保育教諭】

岩切 駿也 滝川 美奈子
宇田 真澄 中川 英子
有川 黎夢 多喜 由紀子
綱谷 眞美 平山 亜利紗

令和6・7年度 幼児教育研究

**心も体もげんきいっぱい！自分らしさ輝くこども園
～ 心地よいそよかぜの中 育ちあい認め合おう ～**

＜ 2年次 研究報告 ＞
八尾市立西郡そよかぜこども園

令和8年2月 発行 （ R7-145 ）

【発行】八尾市
八尾市教育委員会
〒581-0003 八尾市本町一丁目1-1
【TEL】072-991-3881（代表）

